

受クル輕便鐵道ニ付テハ同法施行ノ日ノ屬ス
 ル營業年度ヨリ本令ヲ適用ス
 前項ノ輕便鐵道ニシテ其ノ營業費決算額カ第

第一號樣式

何々間建設費明細表

					何哩何鎖				
項	目	數量	平均單價	金額	項	目	數量	平均單價	金額
量及監督費					諸建物費	貨、車、			
用地費	給費當、 俸旅手、 線路用地、 停車場所用、	坪// 坪//			電信線費	社、建、 本會、電電機、	建坪又、棟數 // 哩本箇		
土工費	切堤、 取築、	立坪//			發電所費	、電、 建發、	建坪又、棟數 //		
橋梁費	何川橋梁所渠 何用外何箇	延呎//			變電所費	、壓、 建變、	建坪又、棟數 //		
隧道費	何々隧道 何隧道外何箇	延長呎//			電線路費	饋送電電、 、	建坪又、棟數 //		
軌道費	軌條及附屬品木利費、 枕砂敷、設、	哩本立坪哩			何々費	、電電車、 、	哩// //本		
停車場費	何々驛外何箇				何總係費	、 、			
車輛費	何々機關車	輛//			報俸旅手、	、 、			
					計付				
					合一哩二				

第四號様式

何々間營業費計算表

			何哩何分		
			金額	一日一哩平均	備考
			円	円	
保 動 運 何 總 諸 合	存 力 輸 係	費 費 費 々 費 稅 計			

備考欄ニハ算出ノ基礎其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第五號様式

何々間益金計算表

	金額	備考
營 業 收 入 費 益 ノ 二 十 分 一 差 引 益 金		

營業收入ノ欄ニハ第三號表ノ運輸收入額ヲ記載スヘシ

第二號様式

何々間運輸數量計算表

				何哩何分		
				數量	一日一哩平均	備考
旅 客 延 人 員 貨 物 延 噸 哩						

備考欄ニハ算出ノ基礎其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第二號様式ノ二

何々間車輛走行哩表

機 關 車	數	車	貨 車	備 考

車輛走行哩ハ一年分ヲ記載シ備考欄ニハ算出ノ基礎其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第三號様式

何々間營業收入計算表

				何哩何分		
				金額	一日一哩平均	備考
				円	円	
運 輸 收 入 雜 收 雜 合	旅 客 運 賃 貨 物 運 賃 雜 收	入 貨 物 運 賃 收 入 計				

運輸收入中雜收ノ金額ハ第十五號表ノ運輸收入中旅客運賃及貨物運賃以外ノ總テノ運輸收入ヲ記載スヘシ
備考欄ニハ算出ノ基礎第二號表ノ延人哩及延噸哩ヲ以テ本表ノ旅客運賃及貨物運賃ノ(除シタル平均賃率等)其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第七號樣式

各事業關聯興業費分割表

自年月日至年月日

事業種別	各事業專用興業費當期決算額	分割率(百分比)	關聯興業費分擔額	當期決算額合計
地方鐵道、 地軌、 水電、 倉庫、 何、 合				

各事業專屬興業費當期決算額中ニハ興業營業關聯費及建設營業關聯費ヲ含マス

第八號樣式

各事業關聯興業費明細表

自年月日至年月日

種目	金額	備考
測量及監督費、 俸給、 總係、 報給、 俸酬、 何、 合、 計		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第六號樣式

何々間建設費豫算決算差引對照表

自年月日至年月日 何哩何鎖

科目	豫算額	決算額			豫算決算差引不足額	備考
		前期末決算額	當期決算額	計		
測量及監督費、 俸給、 總係、 報給、 俸酬、 何、 合、 計						

數區間ニ區分シテ整理スルトキハ區間毎ニ本表ヲ調製シ更ニ項ノ金額ニ付總括表ヲ調製添付スヘシ補助ヲ受クル區間カ二區間以上ナルトキハ第六條ノ規定ニ依リ通算スヘキ區間ニ付亦同シ當期決算額ニ付テハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載シ且認可ヲ經ハ届出ヲ爲シタル事項ニ付テハ各其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第十號様式

各事業興業營業關聯費明細表

本表ハ第八號様式ニ準シ調製スヘシ

第十一號様式

建設營業關聯費分割表

自年月日至年月日

事業種別	各事業專屬興業費当期決算額	各事業專屬營業費当期決算額	各事業專屬興業費当期決算額	合計	分割率 (百分比)	興業營業關聯費分擔額
	円	円	円			
地方鐵道業 道運氣庫 ト 可 合						
建設費計						
營業費計						
合						

第十二號様式

建設營業關聯費明細表

自年月日至年月日

科目	金額	備考
測量及監督 係 總 報 係 何 計	円	
興業營業關聯費分擔額 合		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

九號様式

各事業興業營業關聯費分割表

自年月日至年月日

事業種別	各事業專屬興業費当期決算額	各事業專屬營業費当期決算額	各事業專屬興業費当期決算額	合計	分割率 (百分比)	興業營業關聯費分擔額
	円	円	円			
地方鐵道業 道運氣庫 ト 可 合						

各事業專屬興業費当期決算額ハ第七號表中当期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ

各事業專屬營業費当期決算額ハ第二十號表中当期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ

各事業專屬興業營業關聯費当期決算額ハ第十二號表ノ合計金額ヨリ興業營業關聯費分擔額ヲ控除シタル金額ヲ記載スヘシ各事業專屬興業費、營業費及興業營業關聯費ノ当期決算額ハ前三項ニ該當セサルモノト雖總テ之ヲ各相當欄ニ計上スヘシ

第十六號様式

各事業關聯營業收入分割表

事業種類	自 年 月 日 至 年 月 日			備考
	各事業關聯 營業收入 各營業決算額	分割率 (百分比)	關聯營業 收入分當額	
業業業業々々計 業業業業々々計 業業業業々々計 業業業業々々計 業業業業々々計 業業業業々々計 業業業業々々計 業業業業々々計 業業業業々々計 業業業業々々計 業業業業々々計				

第十七號様式

各事業關聯營業收入明細表

科目	自 年 月 日 至 年 月 日			備考
	金額	備	考	
入子利子料、々々計 收延滞手数料、 金延替、 預金、 雜預株、 何、合				

雜入等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第十八號様式

營業收入區間分割表

自 年 月 日 至 年 月 日

區間	哩數	客車收入		貨車收入		運輸雜收	合計
		分當額	分割率 (百分比)	分當額	分割率 (百分比)		
何々々々計							
何々々々計							
何々々々計							

補助ヲ受クル期間及補助ヲ受ケサル期間アル場合又ハ補助ヲ受クル區間中補助日數ヲ異ニスル場合ノ營業收入分割表ハ本表ニ準ジ之ヲ調整スヘシ

第二十號様式

各事業關聯營業費分割表

自年月日至年月日

事業種別	各事業專屬營業費當期決算額	分割率(百分比例)	關聯營業費分擔額	當期決算額合計
地方鐵道業、 地軌道運業、 水電倉庫業、 倉何々計	円		円	円

各事業專屬營業費當期決算額中ニハ興業營業關聯費及建設營業關聯費ヲ含マス

第二十一號様式

各事業關聯營業費明細表

自年月日至年月日

科目	金額	備考
總係社費、 本報俸手、 倉何々計	円	

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第十九號様式

營業費決算表

自年月日至年月日

科目	決算額	備考
保監、 存督、 旅事、 工、 動監、 發、 何、 計	円	

前年度ニ比シ著シキ増減アルモノハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スヘシ
雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ
營業收入ヲ以テ新設改良工事費、借入金利子及社債差損金等ヲ支出シタルトキハ之ヲ營業費ニ計上セス欄外ニ記載スヘシ

第十九號様式ノ二

營業費區間分割表

自年月日至年月日

區間	營業哩	營業收入	分割率(百分比例)	分擔額
何々間、 何々間、 合計		円		円

營業收入ハ第十八號表中合計欄ノ金額ヲ記載スヘシ
第十八號様式ノ記事ハ本表ニ之ヲ準用ス

第二十三號様式

何々間車輛走行哩表

自年月日至年月日

何々	月	車輛走行哩			備考
		機關車	客車	貨車	
何	月				
何	月				
合	計				

第二十二號様式ノ記事第四號ハ本表ニ之ヲ準用ス

第二十二號様式

何々間運輸數量及列車走行哩表

自年月日至年月日 何哩何分

何々	月	延人哩	延噸哩	列車走行哩	備考
何	月				
合	計				

定期乗車券ニ對スル延人哩ハ當該區間ヲ一日一往復乗車スルモノトシテ計算スヘシ

數區共用ノ乗車券ニ對スル延人哩ハ各區間ヲ平均ニ乗車スルモノトシテ計算スヘシ

列車單位著シク不同ナルモノニ在リテハ其ノ列車走行哩ヲ區分シテ記載スヘシ

補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間又ハ補助ヲ受クル期間及補助ヲ受ケサル期間アル場合ハ各別ニ本表ヲ調製スヘシ補助ヲ受クル區間中補助日數ヲ異ニスルモノアル場合亦同シ

地方鐵道補助法第一條ノ營業費算出ノ方

法(大正七年三月三十日) 閣令第二十二號

改正 大正八年三月 同八年八月 閣令第二號 同第一五號

地方鐵道補助法第一條ノ營業費算出ノ方法左ノ通定ム

地方鐵道補助法第一條ノ營業費ハ同法施行規則第二條第三號ニ定ムル公式ニ依リ計算シタル一日一哩ノ營業費ニ基キテ算出シタル額ニ左ノ金額ヲ加算シタルモノニ依ル但シ其ノ額カ營業費決算額カ超過スル場合ニ在リテハ其ノ超過額ノ二分ノ一ヲ控除シ、營業費決算額ニ不足スル場

地方鐵道補助法營業費算出ノ方法

合ニ在リテハ其ノ二分ノ一ヲ加算ス

蒸氣ヲ動力トスル軌間三呎六吋ノ鐵道ニシテ延長十哩未滿ノモノニ在リテハ其ノ十分ノ六十哩以上ノモノニ在リテハ其ノ十分ノ四、蒸氣ヲ動力トスル軌間二呎六吋ノ鐵道ニシテ延長十哩未滿ノモノニ在リテハ其ノ十分ノ四、十哩以上ノモノニ在リテハ其ノ十分ノ二、電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ其ノ十分ノ三

附 則

本令ハ大正七年三月三十一日ヲ含ム營業年度分ヨリ之ヲ適用ス
本令ハ講和條約調印ノ日ノ屬スル年ノ翌年三月三十一日ヲ含ム營業年度分限リ之ヲ廢止ス

地方鐵道法營業收入及營業費計算方法

六二

地方鐵道法第三十一條ニ依ル營業收入及營業費計算方法

(大正九年八月九日 鐵道省令第二號)

地方鐵道法第三十一條ニ依ル營業收入及營業費計算方左ノ通定△

地方鐵道法第三十一條ニ依ル營業收入及營業費計算方法

第一條 營業收入ハ客車收入、其ノ他運輸營業上ノ諸收入トス

第二條 營業費ハ鐵道及其ノ附屬物件ノ保存復舊ノ費用、諸稅其ノ他運輸營業上ノ諸費用ト

四 營業費ハ買收及殘存各區間ニ於ケル營業收入ニ依ル百分率

第四條 地方鐵道會計規程第十條乃至第十二條ノ規定ハ本令ニ依ル營業收入及營業費ノ計算ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道法營業收入及營業費計算方法

六三

ス

第三條 一部買收ノ場合ニ於ケル買收及殘存區間ノ營業收入及營業費ハ營業年度毎ニ各區間ニ付之ヲ計算ス

買收及殘存區間ニ跨ル營業收入及營業費ハ左ノ各號ニ依リ營業年度毎ニ各區間ニ付之ヲ分割ス

一 客車收入ハ買收及殘存區間ニ跨ル乘客ノ各區間ニ於ケル延人哩數ニ依ル百分率

二 貨車收入ハ買收及殘存區間ニ跨ル貨物ノ各區間ニ於ケル延噸哩數ニ依ル百分率

三 前二號ニ掲ケルモノ以外ノ收入ハ買收及殘存各區間ニ於ケル他ノ收入總額ニ依ル百分率

北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件

北海道拓殖鐵道補助 ニ關スル件

(大正九年八月六日)
法律第五六號

北海道拓殖促進ノ爲必要アリト認ムル地方鐵道及軌道ニ對シテハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ該鐵道營業開始ノ日ヨリ五年ヲ限リ北海道拓殖費ヨリ補助ヲ爲スコトヲ得

北海道ニ於テ經營ス ル地方鐵道又ハ軌道 補助ニ關スル件

(大正十一年四月八日)(四月十日)
勅令第一九七號(官報)

第一條 北海道ニ於テ經營スル地方鐵道又ハ軌道ノ每營業年度ニ於ケル益金ヲ建設費ニ對シ地方鐵道ニ在リテハ年七分、軌道ニ在リテハ年八分ノ割合ニ達セサルトキハ大正九年法律第五十六號ニ依リ其ノ不足額ヲ補助スルコトヲ得但シ補助金ハ建設費ニ對シ年八分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス
前項ノ建設費及益金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

北海道ニ於テ經營スル地方鐵道又ハ軌道補助ニ關スル件

算出シタル金額ニ依ル

第一項ノ補助金ハ地方鐵道補助法ニ依リ補助ヲ受クルモノニ在リテハ其ノ補助金ニ相當スル金額ヲ控除シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 補助ヲ爲スヘキ地方鐵道及軌道ハ二呎六吋以上ノ軌間ヲ有スルモノニ限ル

第三條 地方鐵道又ハ軌道ノ管理者カ法令ニ基キテ爲ス命令、免許特許若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ補助ヲ停止シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條 詐欺ニ因リテ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

附 則

北海道ニ於テ經營スル地方鐵道又ハ軌道補助ニ關スル件
本令ハ大正九年法律第五十六號施行ノ日ヲ含ム
營業年度分ヨリ之ヲ適用ス

北海道地方鐵道及軌道ノ補助施行ニ關スル件

ル件(大正十一年四月十日
內務省令第八號)

北海道拓殖促進ノ爲必要アリト認ムル地方鐵道及軌道ノ補助施行ニ關スル件左ノ通定ム

- 第一條 大正十一年勅令第九十七號第一條ノ建設費、營業費、營業收入、營業費及益金ハ左ノ各號ノ額ニ依ル
- 一 建設費ハ當該地方鐵道及軌道ノ豫算額及決算額ヲ基礎トシ北海道廳長官ノ査定シタル額
- 二 營業收入ハ當該地方鐵道及軌道ノ客車收入、貨車收入及運輸收入決算額

北海道地方鐵道及軌道ノ補助施行ニ關スル件

三 營業費ハ當該地方鐵道及軌道ノ營業費決算額ヲ基礎トシ北海道廳長官ノ査定シタル額

四 益金ハ營業收入ヨリ營業費ヲ控除シタル殘額但シ法定準備金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ益金ノ二十分ノ一ハ之ヲ益金ニ算入セス

第二條 地方鐵道及軌道ノ補助ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外大正三年閣令第三號地方鐵道補助法施行規則ヲ準用ス但シ其規定中「鐵道大臣」トアルハ「北海道廳長官」トス

附 則

本令ハ大正十一年勅令第九十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軌道法

(大正十年四月三十日法律第七六號)

第一條 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル爲敷設スル軌道ニ之ヲ適用ス
 一般交通ノ用ニ供セサル軌道ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二條 軌道ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ道路ニ敷設スヘシ
 第三條 軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ
 第四條 前條ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケタル軌道經營者ハ軌道敷設ニ要スル道路ノ占用ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看

做ス此ノ場合ニ於ケル道路ノ占用料ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル
 第五條 軌道經營者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ
 天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得
 第六條 軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ道路ニ關スル工事ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス河川法、砂防法及之ニ基キテ發スル命令ニ依ル許可又ハ認可ニ付亦同シ
 第七條 軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタル

得

トキハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムヘシ
 第一條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス
 第八條 地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ道路ニ敷設スル軌道工事及之カ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ全部又ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依ル工事ニ要スル費用ノ負擔ニ付道路管理者及軌道經營者ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス
 第九條 道路管理者道路ノ新設又ハ改築ノ爲必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ新設シタル軌道敷地ヲ無償ニテ道路敷地ト爲スコトヲ

得

第十條 軌道經營者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス
 第十一條 軌道經營者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金並運輸時刻ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃、料金又ハ運輸時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得
 第十二條 軌道經營者ハ軌道間ノ全部及其ノ左右二尺ヲ限リ道路ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ
 地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ前項ノ維持及修繕ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ノ負擔ニ付テハ第八

軌道法

七〇

條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九條ノ規定ニ依リ道路敷地ト爲シタルモノ
第二付テハ第一項ノ維持及修繕ハ道路管理者ヲ
爲スヘシ

十三條 主務大臣又ハ地方長官ハ監督上必要
アリト認ムルトキハ軌道經營者ヲシテ帳簿、
書類及圖面ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シ
テ軌道ノ設備、事業ノ狀況並會計及財産ノ實
況ヲ監査セシムルコトヲ得

第十四條 軌道ノ建設、運輸、運轉、係員及會
計ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ
タル場合ニ限り特許ニ因リテ生スル權利義務
ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第十六條 軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ
タル場合ニ限り軌道ノ讓渡又ハ事業若ハ運轉
ノ管理ノ委託者ハ受託ヲ爲スコトヲ得
前項ノ管理ノ委託ヲ受ケタル者ハ其ノ管理ニ
付主務大臣ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其
ノ責ニ任ス

第十七條 軌道經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ軌道ノ附
屬物件ノ讓渡又ハ貸渡ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 國又ハ公共團體ニ於テ公益上ノ必要
ニ因リ軌道ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ
買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ム
コトヲ得ス
公共團體ニ於テ前項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲サ

△トスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
公共團體ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲
シタルトキハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ
承繼ス

第十九條 地方鐵道法第三十一條乃至第三十五
條ノ規定ハ國ニ於テ前條第一項ノ規定ニ依ル
買收ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

公共團體カ前條第一項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲
ス場合ニ於テハ買收價額ハ協定ニ依ル協議調
ハサルトキハ申請ニ因リ前項ノ規定ニ準シ算
出シタル金額ヲ標準トシテ主務大臣之ヲ裁定
ス

第二十條 公共團體カ第十八條第一項ノ規定ニ
依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テ公益上ノ必要ニ因

軌道法

七一

リ兼業ニ屬スル資産及軌道經營ニ必要ナル貯
藏物品ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ
之ヲ拒ムコトヲ得ス

公共團體カ第十八條第一項ノ規定ニ依ル買收
ヲ爲ス場合ニ於テハ軌道經營者ハ兼業ニ屬ス
ル資産及軌道經營ニ必要ナル貯藏物品ノ買收
ヲ求ムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ買收價額ニ付協議調ハサ
ルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十一條 軌道會社ノ株金ノ第一回拂込金額
ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

軌道會社ハ株金全額拂込前ト雖主務大臣ノ認
可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル
爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

軌道法

前二項ノ規定ハ地方鐵道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ軌道ヲ敷設スル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十二條 軌道會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セサルトキ

二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三 事業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

四 特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキ
ハ工事施行ノ認可申請期間内ニ會社設立ノ登記ヲ爲ササルトキ

之ヲ準用ス但シ地方鐵道法第七條第三項及第八條第一項中鐵道抵當法トアルハ明治四十二年法律第二十八號トス

第二十七條 軌道經營者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二 他人ヲシテ軌道經營者ノ計算ニ於テ必要ナル施設又ハ事業ノ管理ヲ爲サシムルコト

三 特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其

軌道法

第二十四條 軌道經營者軌道ニ關スル工作物ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ノ指示スル所ニ從ヒ道路ヲ原狀ニ回復スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ負擔ニ於テ道路管理者ヲシテ前項ノ規定ニ依ル工事ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二十六條 地方鐵道法第七條第二項第三項、

第八條第一項、第十條第二項、第十一條、第

十五條、第十七條、第十九條第二項、第二十

三條第二項第三項、第二十五條、第二十七條

第三十條第二項及第三十六條ノ規定ハ軌道ニ

ノ他ノ役員ハ再任セラレルコトヲ得ス

第一項第二號ノ規定ニ依リ事業ノ管理ヲ爲ス者ハ其ノ管理ニ付主務大臣ニ對シ當該軌道經營者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十八條 特許ヲ受ケスシテ軌道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ軌道經營者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ特許、許

軌道法

可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出、報告若ハ記載シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十條 前二條ノ規定ハ公共團體カ軌道ヲ經營スル場合ニ之ヲ適用セス

第三十一條 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル軌道ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

前項ノ軌道ニ準スヘキモノハ命令ヲ以テ之ヲ

定ム

第三十二條 國ニ於テ軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スヘシ其ノ工事施行ニ付亦同シ國ニ於テ經營スル軌道ニ付テハ第二條、第十二條第一項、第十四條及第二十四條第一項ノ規定ヲ除クノ外本法ヲ適用セス但シ第十四條中軌道ノ係員及會計ニ付テハ此ノ限ニ在ラス第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ニ協議ヲ了シタルトキハ第四條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軌道條例ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル特許、認可、處分、手續

其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許、認可其ノ他ノ處分ニ附シタル條件ニシテ本法ニ牴觸スルモノハ其ノ効力ヲ失フ
他ノ法令中軌道條例トアルハ軌道法トス

鐵道營業法

(明治三十三年三月十六日)

改正 明治四十三年四月 大正八年四月
法律第五〇號 同第五四號

第一章 鐵道ノ設備及運送

- 第一條 鐵道ノ建設、車輛器具ノ構造及運轉ハ命令ヲ以テ定ムル規程ニ依ルヘシ
- 第二條 本法其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノノ外鐵道運送ニ關スル特別ノ事項ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル
- 鐵道運輸規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 運賃其ノ他ノ運送條件ハ關係停車場ニ公告シタル後ニ非サレハ之ヲ實施スルコトヲ

得ス
運賃其ノ他ノ運送條件ノ加重ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ公告ハ一月以上之ヲ爲スコトヲ要ス

- 第四條 傳染病患者ハ主務大臣ノ定ムル規程ニ依ルニ非サレハ乗車セシムルコトヲ得ス
附添人ナキ重病者ノ乗車ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得
- 第五條 火藥其ノ他爆發質危險品ハ鐵道力其ノ運送取扱ノ公告ヲ爲シタル場合ノ外其ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得
- 第六條 鐵道ハ左ノ事項ノ具備シタル場合ニ於テハ貨物ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得ス
一 荷送人カ法令其ノ他鐵道運送ニ關スル規

定ヲ遵守スルトキ

- 二 貨物ノ運送ニ付特別ナル責務ノ條件ヲ荷送人ヨリ求メサルトキ
- 三 運送カ法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反セサルトキ
- 四 貨物カ成規ニ依リ其ノ線路ニ於ケル運送ニ適スルトキ
- 五 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支障ナキトキ
- 前項ノ規定ハ旅客運送ニ之ヲ準用ス
- 第七條 運送ニ付特別ノ設備ヲ要スル貨物ニ關シテハ鐵道ハ其ノ設備アル場合ニ限り之ヲ引受クルノ義務ヲ負フ
- 第八條 鐵道ハ直ニ運送ヲ爲シ得ヘキ場合ニ限

鐵道營業法

リ貨物ヲ受取ルヘキ義務ヲ負フ

- 第九條 貨物ハ運送ノ爲受取リタル順序ニ依リ之ヲ運送スルコトヲ要ス但シ運輸上正當ノ事由若ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十條 鐵道ハ貨物ノ種類及性質ヲ明告スヘキコトヲ荷送人ニ求ムルコトヲ得若シ其ノ種類及性質ニ付疑アルトキハ荷送人ノ立會ヲ以テ之ヲ點檢スルコトヲ得
- 點檢ニ因リ貨物ノ種類及性質カ荷送人ノ明告シタル所ト異ナラサル場合ニ限り鐵道ハ點檢ニ關スル費用ヲ負擔シ且之カ爲生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス
- 前二項ノ規定ハ火藥其ノ他爆發質危險品ヲ成

鐵道營業法

規ニ反シ手荷物中ニ收納シタル疑アル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ニ付テハ荷送人カ運送委託ノ際其ノ物品ノ種類、性質及價格ヲ明告シ且増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道ハ損害賠償ノ責ニ任セス但シ鐵道カ増賃金ノ支拂ヲ請求セサルニ因リ荷送人ニ於テ其ノ支拂ヲ爲ササルトキハ此ノ限ニアラス

前項増賃金ノ割合ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 牛馬其ノ他ノ獸類ニ付テハ荷送人カ運送委託ノ際價格ヲ明告セサルトキ又ハ明告スルモ鐵道運輸規程ニヨリ鐵道ノ請求スル増

賃金ヲ支拂ハサルトキハ其ノ損害ニ付鐵道ハ鐵道運輸規程ニ定ムル最高金額迄ヲ限り賠償ノ責ニ任ス

前項賠償金額ノ制限ハ惡意又ハ重大ナル過失

ニ因リ損害ヲ生シタル場合ニハ之ヲ適用セス
第十三條 惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル手荷物ノ滅失、毀損ニ付テハ鐵道ハ鐵道運輸規程ニ定ムル最高金額迄ヲ限り損害賠償ノ責ニ任ス

第十三條ノ二 荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送品ハ主務大臣ノ定ムル所ニヨリ公告ヲ爲シタル後六箇月内ニ其權利者ヲ知ルコト能ハサル場合ニ於テハ鐵道其ノ所有權ヲ取得ス託送手荷物及一時預リ品ニ付亦同シ

第十三條ノ三 鐵道カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ貨物ノ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ倉庫業者ニ寄託スルコトヲ得

貨物ヲ寄託シタルトキハ鐵道ハ遲滞ナク荷送人及荷受人ニ對シ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

貨物ヲ寄託シタル場合ニ於テ倉庫證券ヲ作製シセメタルトキハ其ノ證券ノ交付ヲ以テ貨物ノ引渡ニ代フルコトヲ得

鐵道ハ第一項ノ費用ノ辨濟ヲ受クル迄倉庫證券ヲ留置スルコトヲ得
前四項ノ規定ハ貨物ノ引取期間内ニ其ノ引取ナキ場合ニ之ヲ準用ス

鐵道營業法

第十四條 運賃償還ノ債權ハ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第十五條 旅客ハ營業上別段ノ定アル場合ノ外運賃ヲ支拂ヒ乗車券ヲ受クルニ非サレハ乘車スルコトヲ得ス乗車券ヲ有スル者ハ列車中座席ノ存在スル場合ニ限り乘車スルコトヲ得

第十六條 旅客カ乘車前旅行ヲ止メタルトキハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
乘車後旅行ヲ中止シタルトキハ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第十七條 天災事變其ノ他已ムテ得サル事由ニ因リ運送ニ著手シ又ハ之ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ旅客及荷送人ハ契約ノ

鐵道營業法

解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ鐵道ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應ジ運賃其ノ他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 旅客ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乗車券ヲ呈示シ検査ヲ受クヘシ有效ノ乗車券ヲ所持セス又ハ乗車券ノ検査ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル者ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ割増賃金ヲ支拂フヘシ前項ノ場合ニ於テ乗車停車場不明ナルトキハ其ノ列車ノ出發停車場ヨリ運賃ヲ計算ス乗車等級不明ナルトキハ其列車ノ最優等級ニ依リ運賃ヲ計算ス

第二章 鐵道係員

第十九條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定

第二十條 地方鐵道業者ハ鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十一條 主務大臣ハ鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 旅客及公衆ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

第二十三條 地方鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

地方鐵道業者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

懲戒ヲ爲スヘキ場合ニ於テ地方鐵道業者之ヲ爲ササルトキハ監督官廳ニ於テ懲戒ヲ爲スコ

第二十八條 鐵道係員道路踏切ノ開通ヲ怠リ又

ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ踏切ニ留置シ因テ往來ヲ妨害シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條ノ二 第十九條及第二十一條ノ規定ハ政府及公共團體ノ鐵道ニ、第二十條及第二十三條ノ規定ハ公共團體ノ鐵道ニ之ヲ適用セ

第三章 旅客及公衆

第二十九條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 有效ノ乗車券ナクシテ乗車シタルトキ
二 乗車券ニ指示シタルモノヨリ優等ノ車ニ

トヲ得

第二十四條 鐵道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條 鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ旅客若ハ公衆ニ危害ヲ醸スノ虞アル所爲アリタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 鐵道係員旅客ヲ強ヒテ定員ヲ超エ車中ニ乗込マシタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十七條 鐵道係員旅客又ハ荷送人若ハ荷受人ト通謀シ運賃ノ一部若ハ全部ヲ免レシメタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

鐵道營業法

鐵道營業法

乘リタルトキ

三 乗車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セサルトキ

第三十條 運送品ノ種類若ハ性質ヲ詐稱シ又ハ運賃ヲ免ルルノ目的ヲ以テ詐偽ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二 前二條ノ所爲ハ鐵道ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第三十一條 鐵道運送ニ關スル法令ニ背キ火藥類其ノ他爆發質危險品ヲ託送シ又ハ車中ニ携帶シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條 列車警報機ヲ濫用シタル者ハ五十

圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條 旅客左ノ所爲ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 列車運轉中乗降シタルトキ

二 列車運轉中車輛ノ側面ニ在ル車扉ヲ開キタルトキ

三 列車中旅客乗用ニ供セサル箇所ニ乘リタルトキ

第三十四條 制止ヲ肯セスシテ左ノ行爲ヲ爲シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

一 停車場其ノ他鐵道地内吸煙禁止ノ場所及吸煙禁止ノ車内ニ於テ吸煙シタルトキ

二 婦人ノ爲ニ設ケタル待合室及車室等ニ男子立入りタルトキ

第三十五條

鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ車内停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ旅客又ハ公衆ニ對シ寄附ヲ請ヒ、物品ノ購買ヲ求メ、物品ヲ配付シ其ノ他演說勸誘等ノ所爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條

車輛、停車場其ノ他鐵道地内ノ標識揭示ヲ改竄、毀棄、撤去シ又ハ燈火ヲ滅シ又ハ其ノ用ヲ失ハシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

信號機ヲ改竄、毀棄、撤去シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第三十七條

停車場其ノ他鐵道地内ニ妄ニ立入りタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第三十八條

暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ノ

鐵道營業法

執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第三十九條 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ發砲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條 列車ニ向テ瓦石類ヲ投擲シタル者ハ科料ニ處ス

第四十一條 第四條ノ規定ニ違反シ博染病患者ヲ乗車セシメタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス傳染病患者其ノ病症ヲ隱蔽シテ乗車シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキト雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第四十二條 左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公衆ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコト

鐵道營業法

八四

ヲ得

一 有效ノ乗車券ヲ所持セス又ハ検査ヲ拒ミ
運賃ノ支拂ヲ肯セサルトキ

二 第三十三條第三號ノ罪ヲ犯シ鐵道係員ノ
制止ヲ肯セサルトキ又ハ第三十四條ノ罪
ヲ犯シタルトキ

三 第三十五條三十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ
四 其ノ他車内ニ於ケル秩序ヲ紊ルノ所爲アリ
タルトキ

前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ
還付セス

第四十三條 前諸條ノ犯罪及鐵道保安ニ關スル
犯罪ニシテ罰金、拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘ
キ罪ノ現行犯アリタルトキ被告人ガ其ノ住所

氏名ヲ分明ニ告知セス又ハ逃亡ノアルトキハ
鐵道係員ハ司法警察官ニ之ヲ引致スルコトヲ
得

附 則

第四十四條 削除

第四十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ム

鐵道略則、鐵道犯罪罰例、明治十六年七月第
二十三號布告ハ之ヲ廢止ス

鐵道營業法施行ノ件

(明治三十三年八月十日
勅令第三三〇號)

私設鐵道法及鐵道營業法ハ明治三十三年十月一
日ヨリ之ヲ施行ス

閣令第十一號

大正八年八月十三日

地方鐵道建設規程

第一章 總則

第一條 地方鐵道ノ建設ハ本規程ノ定ムル所ニ依ルモノ但シ特別ノ設計ヲ必要トスルモノニ在リテハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ本規程ニ依ラサルコトヲ得

監督官廳ハ鐵道ノ狀況ニ依リ本規程ニ依ラサル特別ノ設計ヲ命スルコトヲ得

第二條 列車ノ運轉ニ常用スル線路ヲ本線路ト謂ヒ其ノ他ノ線路ヲ側線ト謂フ

第三條 旅客又ハ荷物ヲ取扱フ爲列車ヲ停止ス

ル箇所ニシテ轉轍器ノ設備アルモノヲ停車場ト謂ヒ其ノ設備ナキモノヲ停留場ト謂フ

第二章 線路及建造物

第一節 軌間及軌條ノ高度

第四條 軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ノ内側ヨリ内側迄ノ距離ニ依リ之ヲ測定ス

第五條 曲線ニ在リテハ左ノ區別ニ依リ軌間ニ相當ノ擴度ヲ附スヘシ但シ轉轍器ニ附帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ニシテ曲線ノ半徑三十鎖以下ノモノニ在リテハ一吋以内
- 二 軌間二呎六吋ニシテ曲線ノ半徑二十鎖以下ノモノニ在リテハ八分ノ五吋以内

第六條 直線ニ在リテハ兩軌條面ノ高チ均クス

電氣鐵道ノ第三軌條ハ建築定規内ニ入ルコトヲ得

第九條 轍又ニ於テ軌條ト翼軌條又ハ護輪軌條トノ間隔ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

- 一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ 一吋二分ノ一
- 二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ 一吋十六分ノ五

前項以外ノ場合ニ於テハ軌條ト護輪軌條トノ間隔ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

- 一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ 二吋八分ノ一
- 二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ 一吋四分ノ三

地方鐵道建設規程

ルコトヲ要ス但シ曲線ニ於ケル高度ヲ遞減スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

曲線ニ在リテハ轉轍器ニ附帶スル場合ヲ除クノ外側軌條ニ相當ノ高度ヲ附シ曲線ニ接續スル直線又ハ緩和曲線ニ於テ之ヲ遞減スヘシ

第二節 建築定規

第七條 建築定規ハ第一號及第二號圖面ニ依ルヘシ但シ曲線ニ在リテハ軌間ノ擴度及外側軌條ノ高度ニ隨ヒ建築定規中心ノ偏倚傾斜ニ應シ相當之ヲ擴大スヘシ

第八條 燃料搭載所、給水所、轉車臺、計重臺、洗車所、電柱、信號柱等ニシテ停車場内ノ側線ニ係ルモノハ車庫ノ門路及内部ハ車輛定規外六吋迄建築定規内ニ入ルコトヲ得

第十條 轉轍器取柄及轉轍標識等ノ軌條面上ニ突出スル各部分ハ車輛定規外側方ニ於テ三吋迄建築定規内ニ入ルコトヲ得但シ軌條面上左ノ高ヲ超ユルコトヲ得ス

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ 六呎

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ 五呎

第十一條 乗降場及貨物積卸場ノ擁壁面ノ突出點ト軌道中心トノ距離ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ 四呎六吋

二 軌間二呎六吋モノニ在リテハ 三呎八吋

コトヲ得ス

停車場及停留場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ二分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ百分ノ一二至ルコトヲ得

第四節 施工基面

第十六條 軌道中心ヨリ施工基面線端迄ノ距離ハ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ六呎以上、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ五呎以上トス

第五節 軌道及橋梁

第十七條 枕木下面ヨリ施工基面迄ノ道床ノ厚ハ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ四吋以上、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ三吋以上トス

三呎六吋及四吋八呎半ノモノニ在リテハ十一呎以上軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ九呎以上トス

第三節 曲線及勾配

第十三條 本線路ノ曲線半徑ハ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ八鎖以上、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ五鎖以上トス

第十四條 本線路ニ於ケル反向ノ曲線間ニハ相當ノ長ヲ有スル直線ヲ挿入スヘシ

第十五條 本線路ノ勾配三十分ノ一ヨリ急ナル

第十八條 軌道及橋梁ノ各部ハ動荷重ニ耐フル負擔力ヲ有スルコトヲ要ス

第十九條 交通類繁ナル道路又ハ通船類繁ナル河川ニ架設スル橋梁ハ車輛ノ幅及其ノ兩側各六吋以上軌道面下ヲ蓋フコトヲ要ス

第六節 待避所

第二十條 隧道、橋梁其ノ他列車ヲ避クルニ困難ナル場所ニハ三百呎以内ノ距離ニ待避所ヲ設クルコトヲ要ス

第七節 踏切道

第二十一條 踏切道ト線路トノ交角ハ三十度ヨリ小ナルコトヲ得ス
交通類繁ナル踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標ヲ設クルコトヲ要ス

地方鐵道建設規程

交通頻繁ニシテ展望不長ナル踏切道ニハ門扉
其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スヘシ

第八節 常置信號機

第二十二條 停車場外ニ於テ線路カ本線路ヨリ
分岐スル箇所ニハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外
常置信號機ヲ設ケ之ニ關聯スル轉轍器ト相互
聯動セシムルコトヲ要ス

- 一 保安區間内ニ在ル分岐點ノ轉轍器ニシ
テ之ニ通票鎖錠器ヲ裝置シタルトキ
- 二 閉塞式ヲ施行スル單線ニ於ケル分岐點ノ
轉轍器ニシテ之ニ轉轍標識ヲ設ケ轉轍器ヲ
鎖錠シタルトキ

停車場又ハ信號所ニ於ケル本線路ノ對向轉轍
器ニハ鎖錠其ノ他ノ安全裝置ヲ爲スコトヲ要ス

場又ハ信號所外ニ於テ鐵道又ハ軌道ト平面交
叉ヲ爲スコトヲ得ス但シ鐵道又ハ軌道カ人力
又ハ馬力ヲ動力トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十節 諸 標

第二十六條 本線路ニハ左ノ諸標ヲ設ケルコト
ヲ要ス

- 一 每半哩ノ距離ヲ示ス哩程標
 - 二 六十分ノ一ヨリ急ナル勾配ノ始終點ニハ
其ノ勾配ヲ示ス勾配標
- 第二十七條 本線路又ハ側線カ本線路ニ接續ス
ル箇所ニハ車輛ノ停止區域ヲ示ス警標ヲ設ケ
ルコトヲ要ス

第十一節 車輛ノ逸出防備

第二十八條 車輛カ本線路ニ逸出スル虞アル線

地方鐵道建設規程

ス但シ列車對向通過ノ際轉轍器ノ取柄ヲ支持
スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 左ノ箇所ニハ特別ノ場合ヲ除クノ
外常置信號機ヲ設ケルコトヲ要ス但シ閉塞信
號機ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 單線ニ於テ列車ノ行違ヲ爲ス停車場又ハ
信號所
- 二 複線ニ於ケル閉塞區間ノ境界點ニ在ル停
車場、停留場又ハ信號所

第二十四條 場内信號機防護區域外二十鎖以上
ノ距離ヨリ之ヲ展望スルコト能ハサルトキハ
其ノ前方ニ遠方信號機ヲ設ケルコトヲ要ス

第九節 平面交叉

第二十五條 本線路ハ相當ノ保安設備アル停車

路ニハ相當ノ防止設備ヲ爲スヘシ

第二十九條 線路ノ終端ニハ車止ヲ設ケルコト
ヲ要ス

第十二節 線路ノ防備

第三十條 人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏入ル虞アル
場所及保安上必要ナル場所ニハ堤塘、柵垣又
ハ溝渠ヲ設ケルコトヲ要ス

第十三節 停車場其ノ他ノ設備

第三十一條 停車場及信號所ニハ電氣通信ノ設
備ヲ爲スヘシ但シ驛員ヲ常置セサル停車場ニ
在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 旅客ノ乗降多キ停車場ニハ待合所
其ノ他相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十三條 機關車ヲ收容スル爲相當ノ設備ヲ

地方鐵道建設規程

爲スヘシ

第三十四條 車輛ヲ修理スル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ但シ其ノ修理ヲ他ニ委託スルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 發電所及變電所ニハ相當ノ豫備機械ヲ備フルコトヲ要ス

第三章 車輛

第一節 車輛定規

第三十六條 車輛定規ハ車輛ヲ除クノ外第三號及第四號圖表ニ依ルヘシ

第三十七條 外方ニ開キタル車輛ノ扉ハ車輛定規ノ限界ヲ超ユルコトヲ得但シ建築定規ノ範圍ニ於テ三吋以上ノ遊間ヲ存スルコトヲ要ス

第三十八條 排障器、制輪子、撒砂管其ノ他ノモノニシテ輪鐵ノ幅外ニ出テサル部分及聯結器ノ下端ハ軌條面上一吋ノ高迄下ルコトヲ得

第三十九條 彈機ノ作用ニ因リ上下動ヲ爲ササル部分ハ車輛定規ノ中心線ヨリ測リ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ左右各三呎四吋軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ左右各二呎九吋ノ幅内ニ於テ軌條面上二吋ノ高迄下ルコトヲ得

第四十條 排雪器ハ其ノ使用ニ際シ輪軸器、護輪軌條等アル箇所ヲ除クノ外之ヲ軌條頭ニ接觸セシムルコトヲ得

第四十一條 電氣機關車及電車ノ聚電裝置ノ可動部分ハ車輛定規ノ限界ヲ超ユルコトヲ得

第四十二條 前六條ノ規定ハ輪鐵其ノ他ノ磨損又ハ彈機ノ變形アリタル場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第二節 輪軸距

第四十三條 車輛ノ固定輪軸距ハ線路ノ最小曲線半徑ニ應シテ之ヲ定ムヘシ但シ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ十五呎、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ十呎ヨリ大ナルコトヲ得ス

第三節 車輪(第五號圖面參照)

第四十四條 車輪ノ直徑ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ導輪及從輪ハ二呎以上其ノ他ノモノハ二呎六吋以上

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ一呎六吋以上

第四十五條 輪鐵ノ幅ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ四吋二分ノ一以上六吋以下

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ四吋以上五吋以下

第四十六條 車輪一對ノ輪鐵内側距離ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ三呎三吋以上三呎三吋四分ノ一以下

二 軌間四呎八吋半ノモノニ在リテハ四呎五吋二分ノ一以上四呎五吋四分ノ三以下

三 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ二呎三吋

地方鐵道建設規程

地方鐵道建設規程

八分ノ三以上二呎三吋八分ノ五以下

輪縁ナキ車輪一對ノ輪縁内側距離ハ之ヲ左ノ寸法迄縮小スルコトヲ得

一 軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ三呎二吋二分ノ一

二 軌間四呎八吋半ノモノニ在リテハ四呎五吋

三 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ二呎三吋八分ノ一

第四十七條 輪縁ノ高ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ一吋以上一吋十六分ノ七以下

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ八分ノ七吋以上一呎十六分ノ三以下

九四

輪縁ノ厚ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ四分ノ三吋以上

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ八分ノ五吋以上

第四十八條 車輪一對ノ中心線ヨリ輪縁外面迄ノ距離ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ一呎八吋八分ノ三以上一呎八吋四分ノ三以下

二 軌間四呎八吋ノモノニ在リテハ二呎三吋八分ノ五以上二呎四吋以下

三 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ一呎二吋十六分ノ七以上一呎二吋四分ノ三以下

第四十九條 前二條ノ規定ハ輪縁ノ磨損シタル

場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第四節 緩衝器及連結器

第五十條 車輛ニハ彈性ノ緩衝器及連結器ヲ備フルコトヲ要ス

緩衝器及連結器ノ中心ハ軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ軌條面上空車ノトキ三呎ヲ超ユルコトヲ得ス滿載車ノトキ二呎八吋ヲ下ルコトヲ得ス

兩側緩衝器中心間ノ距離ハ軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ四呎トス

機關車ニハ兩端ニ螺旋連結器ヲ、其ノ他ノ車輛ニハ一端ニ螺旋連結器、他端ニ連環連結器ヲ備フルコトヲ要ス

第二項乃至第四項ノ規定ハ中央緩衝連結器ヲ

地方鐵道建設規程

備フル車輛ニ之ヲ適用セス

第五節 機關車ノ裝置

第五十一條 機關車ニハ式ノ裝置ヲ爲スヘシ

一 汽罐ニハ獨々ノ用ヲ爲ス二箇以上ノ給水器ヲ備フルコト

二 汽罐内部ノ水位ヲ獨立ニ認知シ得ル二箇以上ノ驗水器ヲ備ヘ其ノ一ハ機關手ノ位置ヨリ水位ヲ直ニ認メ得ルモヲタルコト

三 二箇以上ノ安全弁ヲ備フルコト

四 火室ノ頂蓋ニ可鎔栓ヲ備フルコト

五 驗壓器ヲ備ヘ其ノ指針盤ニ實用最高汽壓ヲ表示スルコト

六 汽罐ノ火室ニ在ル繫桿ニハ其ノ頂上ニ在ルモノヲ除ク外總テ其ノ毀損ヲ外部ヨリ

發見シ得ヘキ設備ヲ爲スコト

七 汽笛ヲ備フルコト

八 前後ニ排障器ヲ備フルコト

九 煙櫃及灰箱ニハ火粉止ノ設備ヲ爲スコト

十 他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ制動機及

炭水車ノ車輪ニ働クヘキ手用制動機ヲ備

フルコト

第六節 客車及緩急車

第五十二條 客車内ノ面積ハ旅客定員一人ニ付

平均三平方呎ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ起立

乗客ニ對スル相當ノ設備アル場合ニ在リテハ

之ヲ二平方呎半迄縮小スルコトヲ得

第五十三條 客車内ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十四條 客車ノ側面ニ在ル扉ニハ二箇ノ閉

鎖器ヲ備フルコトヲ要ス

第五十五條 緩急車ニハ他ノ制動機ノ設アル場

合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコトヲ要ス

第七節 汽動車、電氣機關車及電車

第五十六條 汽動車ニハ機關車及客車ニ關スル

規定ヲ準用ス

第五十七條 電氣機關車及電車ニハ左ノ裝置ヲ

爲スヘシ

一 特別ノ場合ヲ除クノ外前後ニ制御器ヲ設

ケルコト

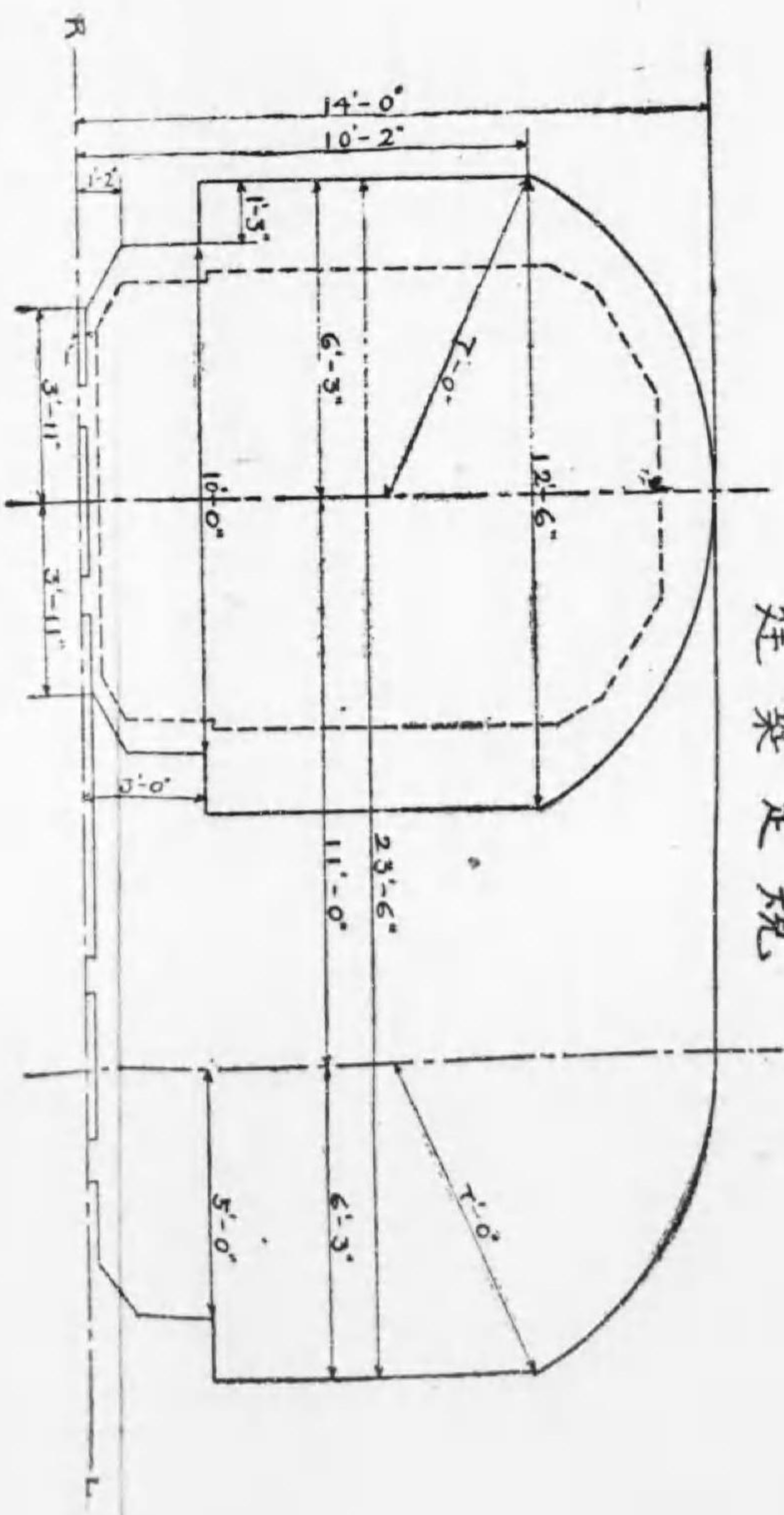
二 自動遮斷器ヲ設ケルコト

三 架空線式ノ場合ニ於テハ避雷器ヲ設ケル

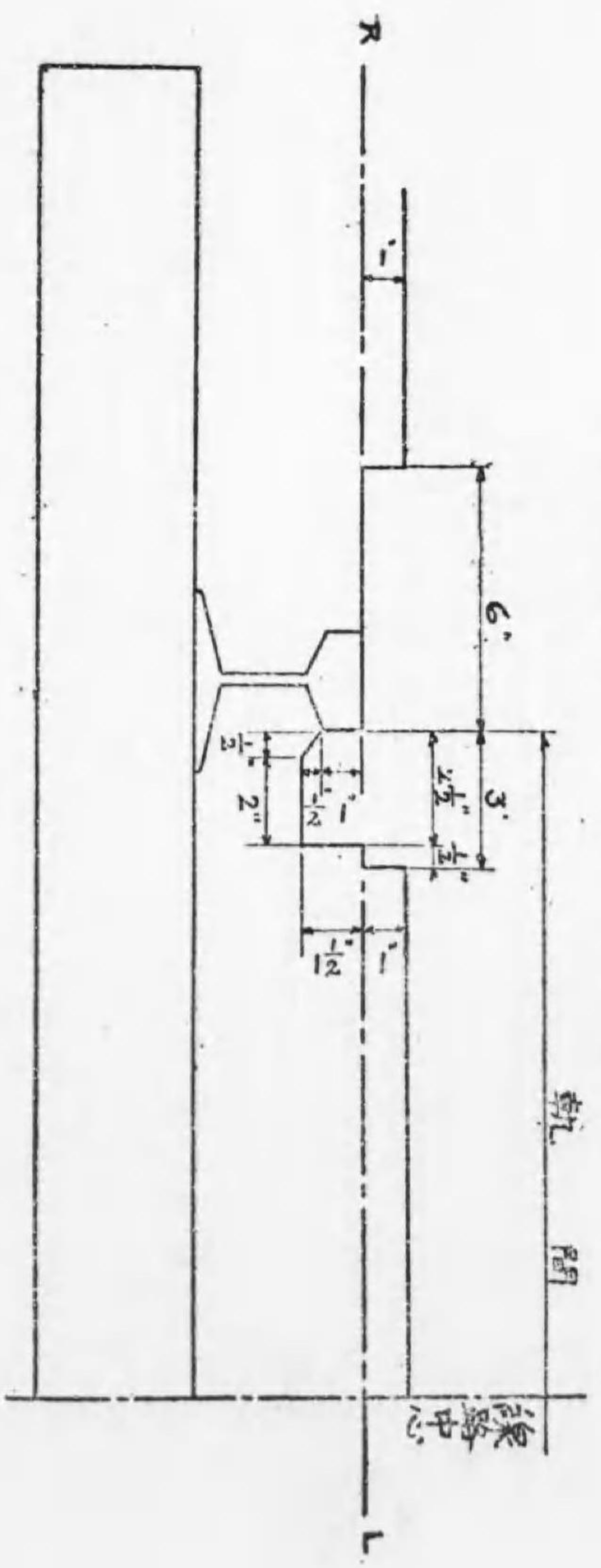
コト

四 警鐘又ハ警笛ヲ備フルコト

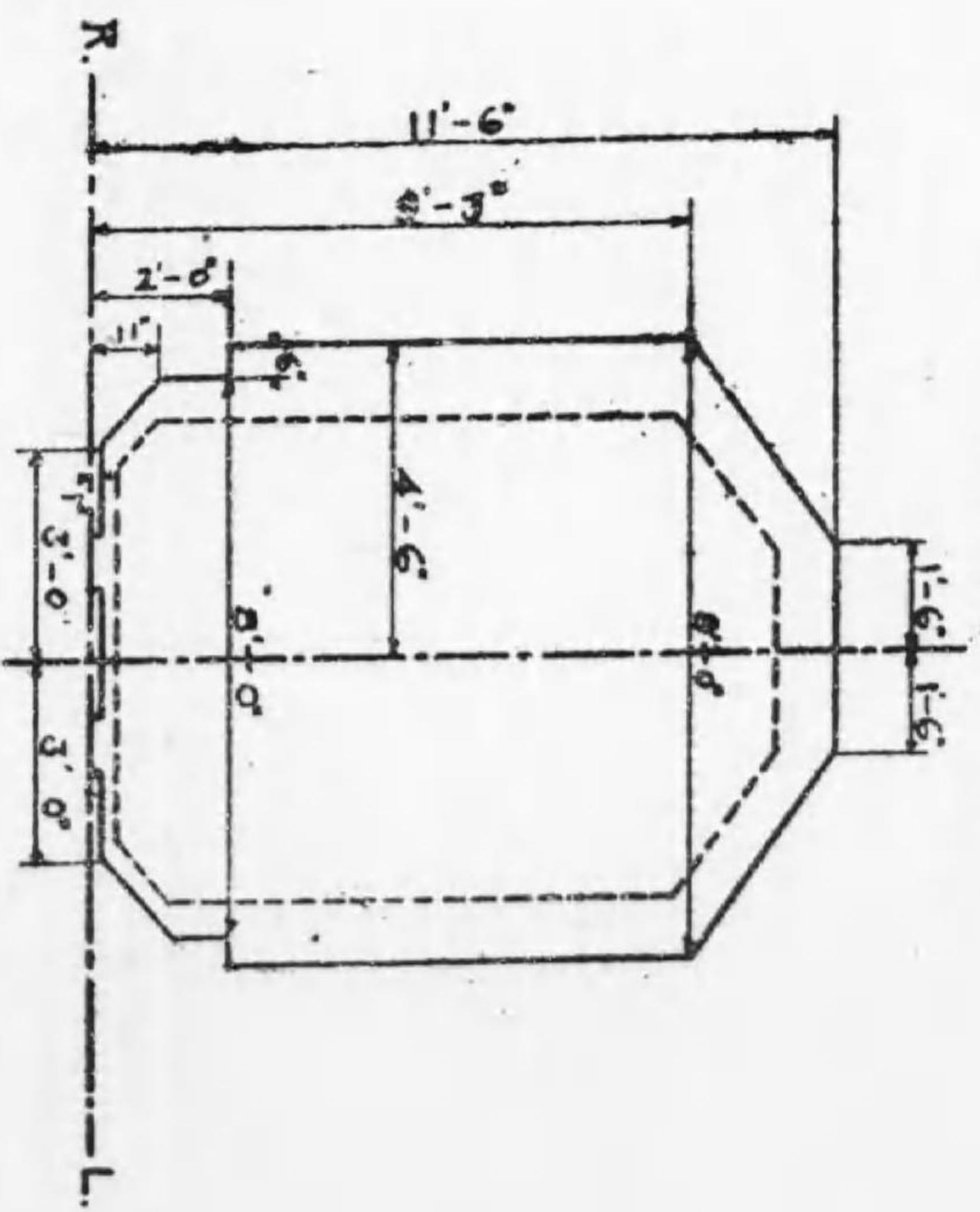
第一蹄圓面
軌間三呎六吋及四呎八吋半鐵道
建築定規



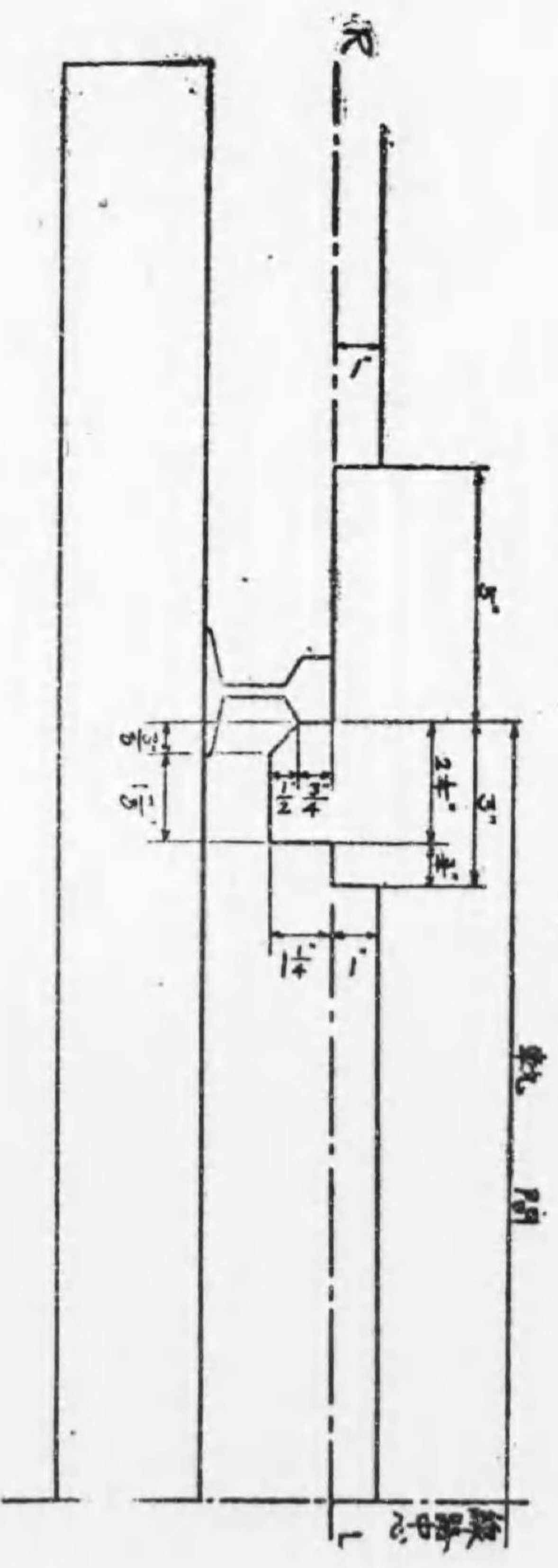
建築定規軌條部分明細圖



第二蹄圓面
軌間二呎六吋鐵道
建築定規



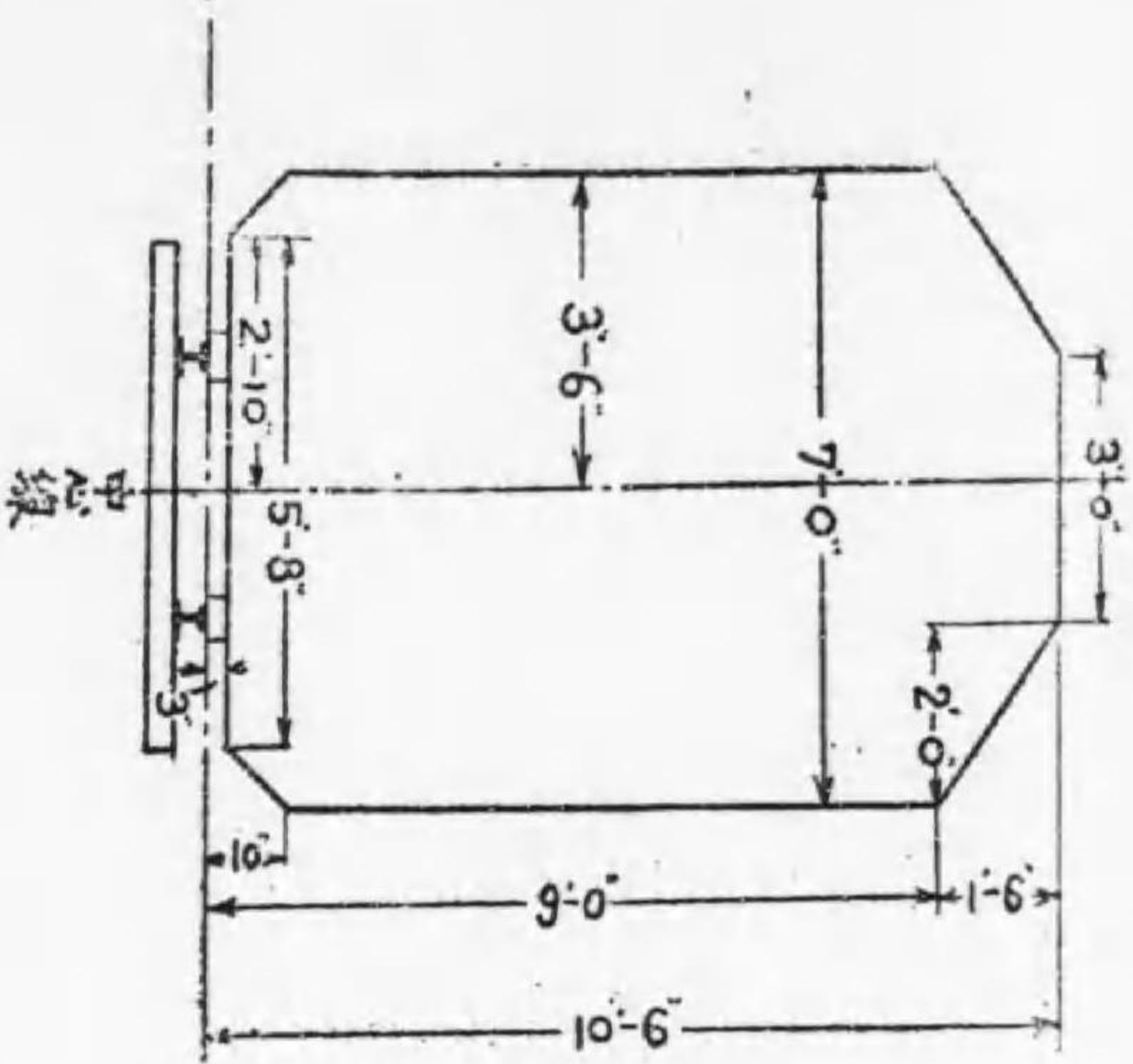
建築定規軌條部分明細圖



第四號圖面

車輪定規

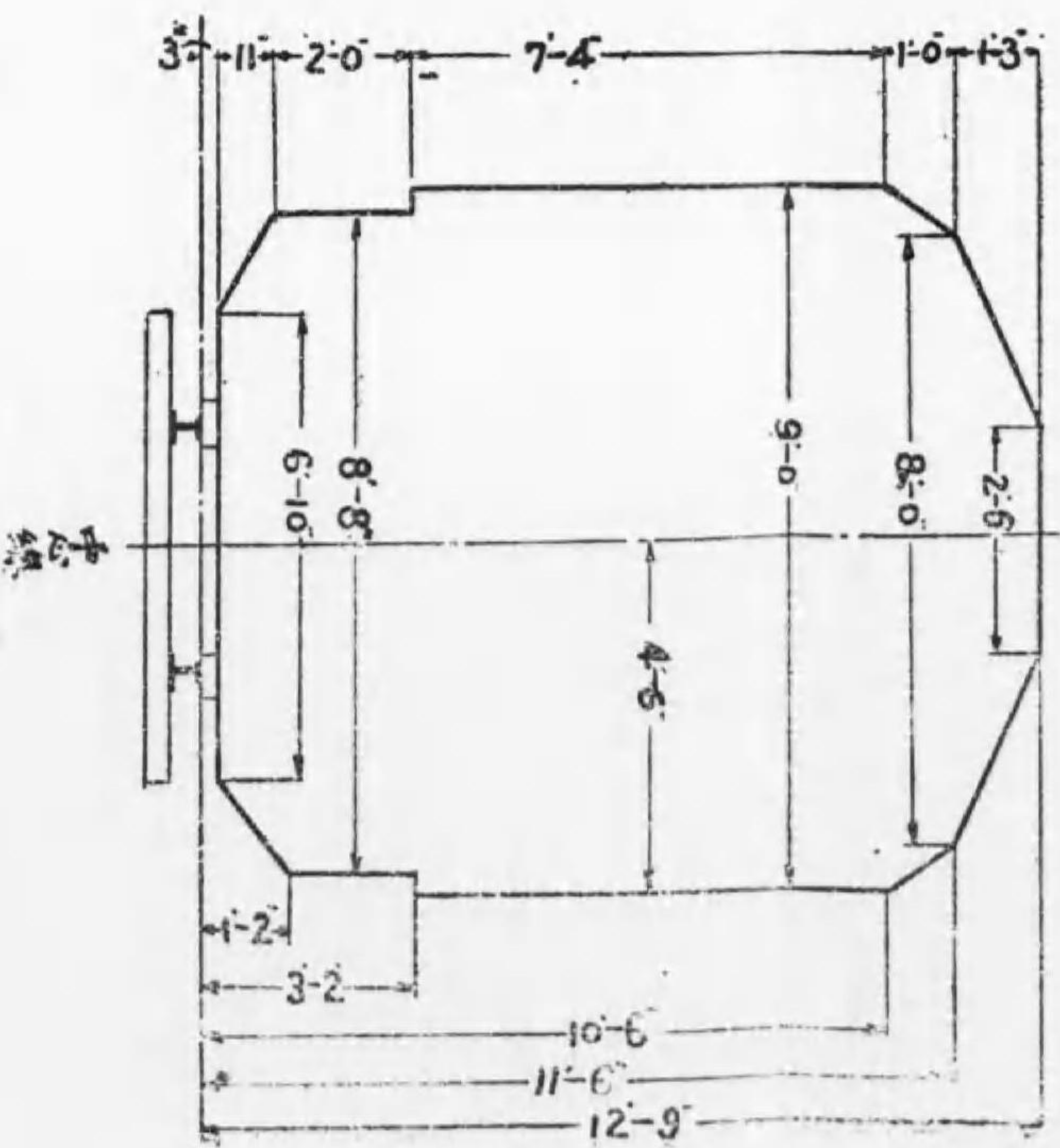
軌間二呎六吋



第五號圖面

車輪定規

四呎八吋半 軌間 三呎六吋



第五號圖面 輪鐵各部之度方



軌	間	3'-6"	4'-8 1/2"	2'-6"
車輪一對(中心線)到輪鐵踏面之距離	1'-10"	WT	WT	WT
口輪鐵之寬	4 1/2" WT 6"	WT	WT	WT
八車輪一對(中心線)到輪鐵內側距離	3'-3" WT 3'-3 1/4" WT	WT	WT	WT
二輪鐵之高	1" WT 1 1/16" WT	WT	WT	WT
亦車輪一對(中心線)到輪鐵外面之距離	1-8 3/8" WT 1-8 3/8" WT	WT	WT	WT
八輪鐵之寬	1 1/2" WT	WT	WT	WT
八車輪一對(中心線)到踏面下位之距離	2-6"	WT	WT	WT
八車輪一對(中心線)到踏面下位之距離	2-6"	WT	WT	WT

五 前後ニ排障器ヲ備フルコト

六 他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ手用動

機ヲ備フルコト

第五十八條 汽動車及電車ニハ乗務員間ノ合圖
器ヲ備フルコトヲ要ス

附 則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ舊規程ニ
依リ許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ハ本令ニ依リ
認可ヲ受ケタルモノト看做ス

舊規程ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行
爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ
本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

地方鐵道建設規程

閣令第十二號

大正八年八月十三日

地方鐵道運轉信號

保安規程

第一章 總則

第一條 地方鐵道ノ運轉、信號及列車保安ハ本規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ本規程ニ依ラサルコトヲ得

監督官廳ハ鐵道ノ狀況ニ依リ本規程ニ依ラサル特別ノ運轉、信號及列車保安ヲ命スルコトヲ得

第二條 蒸氣機關車、汽動車、電氣機關車及電

車ニ付テハ第二十一條及第二十三條ノ規定ヲ除クノ外列車ニ關スル規定ヲ準用ス

第二章 運轉

第一節 線路

第三條 線路ハ列車ヲ安全且正確ニ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ニ之ヲ保持シ毎日少クトモ一回保線係員ヲシテ巡視セシムヘシ

第四條 轉轍器ハ左ノ方向ニ開クヲ以テ其ノ定位トスヘシ

- 一 本線路ト本線路トノ場合ハ列車カ通常進入スヘキ方向
- 二 幹線ト支線トノ場合ハ幹線ノ方向
- 二 本線路ト側線トノ場合ハ本線路ノ方向
- 四 避讓線ト本線路又ハ側線トノ場合ハ避讓

線ノ方向

第五條 本線路ニ於ケル轉轍器ノ取柄ハ列車又ハ車輛ノ對向通過ノ際之ヲ支持スヘシ但シ鎖錠其ノ他ノ安全裝置ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 交通頻繁ニシテ遠方ヨリ展望スルコト能ハサル踏切道其ノ他必要ナル踏切道ニハ列車運轉中番人ヲ置キ之ヲ看守セシムヘシ但シ夜間交通稀ナル際ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 建築定規ノ限界内ニハ列車ノ運轉ニ支障ヲ及ボス虞アル物ヲ置クコトヲ得ス限界内ニ崩壞スル虞アル物ハ限界外ト雖之ヲ置クコトヲ得ス

第八條 停車場及停留場ニハ日没後ハ少クトモ

旅客列車及混合列車發着三十分前ニ點燈スヘシ

第二節 車輛

第九條 車輛ハ安全ニ運轉スルコトヲ得ヘキモノニ非サレバ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條 製作又ハ購入シタル車輛、重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタル車輛及六月以上使用ヲ停止シタル車輛ハ其各部ヲ検査シ試運轉ヲ爲シタル後ニ非サレバ之ヲ使用スルコトヲ得ス

蒸氣機關車又ハ汽動車ニシテ製作又ハ購入シタルモノ及其ノ汽罐ニ重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ前項ノ検査及試運轉ヲ爲スノ外汽罐試驗ヲ行フニ非サレバ之ヲ使用スルコトヲ得ス

地方鐵道運轉信號保安規程

地方鐵道運轉信號保安規程

電氣機關車又ハ電車ニシテ製作又ハ購入シタルモノ及其ノ電動機ニ重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ第一項ノ検査及試運轉ヲ爲スノ外電動機ノ絶縁耐力試験ヲ行フニ非サルハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 蒸氣機關車及汽動車ニ付テハ左ノ定期検査ヲ行フヘシ

- 一 使用ノ狀況ニ依リ三年ヲ超エサル期間毎ニ烟管、汽罐外套、撻彈機、車輪車軸、軸筐、聯結裝置、緩衝裝置、制動裝置等ヲ取外シテ各部ノ検査及汽罐ノ試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコト
- 二 六月ヲ超エサル期間毎ニ汽筒及汽櫃ノ内部、蒸氣管、放汽管、節汽弁、安全弁、檢

査及電動機ノ絶縁耐力試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコト

- 二 一年ヲ超エサル期間毎ニ電動機、制御裝置、聚電裝置、開閉器、自動遮斷器、避雷器、布設電線、接續電纜及各種計器ノ検査ヲ爲スコト
- 三 毎月少クトモ一回電路ト大地トノ間ノ絶縁抵抗ヲ最大使用電壓ヲ以テ試験ヲ行ヒ制動機ノ検査ヲ爲スコト

第十四條 客車及貨車ニ付テハ使用ノ狀況ニ依リ客車ニ在リテハ一年中、貨車ニ在リテハ三年ヲ超エサル期間毎ニ撻彈機、車輪車軸、軸筐、聯結裝置、緩衝裝置、制動裝置等ヲ取外シテ定期検査ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スヘシ

地方鐵道運轉信號保安規程

壓器及真空計ノ検査ヲ爲スコト

- 三 毎月少クトモ一回火室内部、可熔栓、火粉止器、檢水器、給水器及制動機ノ検査ヲ爲スコト

第十二條 前二條ノ汽罐試験ニ於テハ標準檢壓器ヲ使用シ汽罐ノ最高實用壓力ニ其ノ三割五分以上ヲ増加シタル水壓ヲ用キ五分時以上之ヲ持續セシムヘシ

第十三條 電氣機關車及電車ニ付テハ左ノ定期検査ヲ行フヘシ

- 一 使用ノ狀況ニ依リ三年ヲ超エサル期間毎ニ撻彈機、車輪、車軸、軸筐、聯結裝置、緩衝裝置、制動裝置及電動機、制御裝置其他ノ主要ナル電氣裝置ヲ取外シテ各部ノ

汽動車及電車ノ客車部及貨車部ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

- 第十五條 第十條、第十一條、第十三條及第十四條ノ規定ニ依リ施行シタル検査及試験ノ年月日及成績ハ之ヲ帳簿ニ記録スヘシ
- 第十六條 列車ヲ組成スル車輛ハ使用ノ狀況ニ依リ毎日少クトモ一回其ノ要部ヲ検査スヘシ
- 第十七條 蒸氣機關車及電氣機關車ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ

- 一 所屬鐵道ノ名稱又ハ徽章
- 二 番號
- 三 製造所ノ名稱及製造ノ年
- 四 第十一條第一號又ハ第十三條第一號ノ規定ニ依リ施行シタル最近検査ノ年月

地方鐵道運輸信號保安規程

客車、貨車、汽動車及電車ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ

- 一 所屬鐵道ノ名稱又ハ徽章
- 二 記號番號
- 三 製造所ノ名稱及製造ノ年
- 四 等級、旅客定員、積載容積、積載重量及自重
- 五 第十一條第一號、第十三條第一號及第十四條ノ規定ニ依リ施行シタル最近検査ノ年月

第十八條 動力車ニハ列車運輸中ニ生シタル毀損ヲ應急修理スル爲必要ナル器具ヲ備フヘシ

第十九條 蒸氣ヲ有スル機關車及汽動車ハ停止中節汽弁ヲ閉チ轉向機ヲ中央ニ置キ制動機ヲ

緊締シ之ヲ看守スヘシ

電氣機關車及電車ノ運輸手其ノ位置ヲ離ルルトキハ制御機ノ取柄ヲ外シ制動機ヲ緊締シ置クヘシ動力車ト聯結セサル停止中ノ車輛ニハ制動ノ手段ヲ施スヘシ

第二十條 列車ニハ夜間客車ノ内部ニ點燈スヘシ晝間ニ於テモ隧道通過ニ二分時以上ヲ要スルトキ亦同シ

第三節 列車組成

第二十一條 列車ニハ少クトモ左表ニ揚クル割合ニ依リ該列車カ有スル車軸ノ數ニ比例シタル制動機(車側制動機ヲ除ク)ヲ備ヘ適當ナル係員ヲ乗込マシムヘシ

標準 勾配	百軸ニ對シ制動機ヲ附スヘキ軸數			
	列車ノ平均速度十哩迄	一時間十五哩迄	一時間二十哩迄	一時間廿五哩迄
二十分ノ急ナリ	四〇	四九	四九	三二
一分ノ急ナリ	三三	四一	四九	三二
四分ノ急ナリ	二二	二五	二八	三二
五分ノ急ナリ	一八	二〇	二三	二八
六分ノ急ナリ	一五	一七	二〇	二五
七分ノ急ナリ	一三	一五	一八	二三
八分ノ急ナリ	一一	一三	一七	二一
九分ノ急ナリ	九	一一	一五	一九
十分ノ急ナリ	六	八	一二	一六
十一分ノ急ナリ	四	七	一〇	一四
十二分ノ急ナリ				一〇

制動機ヲ附スヘキ車軸數ノ算出ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 停車場間ニ於テ五十鎖ヲ距ツル線路ノ二點ヲ連接スル直線ノ勾配中最急ナルモノ又
- 二 蒸氣機關車、電氣機關車及電車ノ働輪一

軸ハ之ヲ二軸、炭水車ノ一軸ハ之ヲ一軸半、空貨車ノ一軸ハ之ヲ半軸ニ換算スヘシ

三 計算上生シタル一軸未滿ノ端數ハ之ヲ一軸ニ切上クヘシ標準勻配二十五分ノ一ヨリ急ナル場合又ハ平均速度一時間三十哩ヲ超ユルトキニ於ケル制動軸數ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十二條 制動機ハ其ノ制動力カ列車ニ對シ成ルヘク平等ニ働ク様之ヲ配置スヘシ

第二十三條 列車ノ最後部（推進ノ場合ニハ最前部）ニハ手用制動機ノ裝置アル車輛ヲ聯結スヘシ但シ最後部ノ車輛カ貨車ニシテ之ニ隣接スル車輛ニ手用制動機ノ裝置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 二輛以上ニ跨ル荷物ヲ積載シタル貨車ハ之ヲ旅客列車及混合列車ニ聯結スルコトヲ得ス但シ特別ノ裝置ヲ施シタル貨車ニ積載スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 列車ニハ夜間前部ニ白色燈、後部ニ赤色燈各一箇ヲ掲クヘシ晝間ニ於テモ延長二分ノ一哩以上ノ墜道ヲ通過スルトキ亦同シ

第四節 車輛入換

第二十六條 停車場ニ於ケル車輛ノ入換ハ列車カ隣接ノ停車場、停留場又ハ信號所ヨリ該停車場ニ向ヒ出發シタル後ハ相當ノ防護ヲ爲スニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 車輛ハ適當ニ制動セラレ得ル場合ヲ除クノ外動力車ヲ以テ之ヲ突放スルコトヲ

得ス

第二十八條 旅客ノ乗込ミタル車輛又ハ動物若ハ爆發物ヲ積載シタル車輛ノ入換ヲ爲シ之ト他ノ車輛トノ聯結ヲ爲ス場合ニ於テハ解放ノ儘之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 車輛ノ入換ヲ爲ス場合ニ於ケル速度ハ一時間八哩ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條 蒸氣機關車又ハ電氣機關車ヲ以テ夜間車輛ノ入換ヲ爲ス場合ハ其ノ前部及後部ニ白色燈各二箇ヲ掲クヘシ

第五節 列車運轉

第三十一條 列車カ轉轍器附帶ノ曲線ヲ通過スル場合ニ於ケル速度ハ一時間十哩ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十二條 列車ハ停車場内ノ運轉其ノ他特別

地方鐵道運轉信號保安規程

ノ場合ヲ除クノ外左方ノ線路ヲ進行スヘシ

第三十三條 列車ハ左ノ場合ニ限り推進スルコトヲ得

- 一 列車ノ前頭ニ於テ制御スルトキ
- 二 停車場内ヲ運轉スルトキ
- 三 列車又ハ線路ニ故障アルトキ
- 四 工事用列車又ハ停車場外ノ側線ニ出入スル列車ヲ運轉スルトキ

第三十四條 一保安區間ニ於テハ同一軌道ニ同時ニ一列車ノ外運轉スルコトヲ得ス但シ單線ニ於テ標準勻配五十分ノ一ヨリ緩ナルトキニ限り續行列車ヲ運轉スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ續行列車ハ先發列車出發後電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ五分時以上、其ノ他ノモ

地方鐵道運轉信號保安規程

ノヲ動カトスルモノニ在リテハ十分時以上ヲ
經タル後ニ非サレハ之ヲ出發セシムルコトヲ
得ス

第三十五條 列車ハ停車場又ハ停留場以外ノ場
所ニ於テ旅客又ハ荷物ノ取扱ヲ爲ス爲停止ス
ルコトヲ得ス

第三十六條 二箇以上ノ列車ノ著發ニ際シ相互
ニ本線路ニ支障ヲ及ホス虞アル場合ハ二箇以
上ノ列車ヲ同時ニ進入又ハ出發セシムルコト
ヲ得ス

第三十七條 列車ノ運轉ニ關シテハ當務者ヲシ
テ左ノ事項ヲ記載シタル報告書ヲ調製セシム
ハシ
一 列車ノ組成

- 二 始發驛、終著驛及主要驛ニ於ケル發著時
刻
- 三 始發驛、終著驛及主要驛ニ於ケル延著發
又ハ早著ノ時分及其ノ理由
- 四 其ノ他必要ナル事項

第三章 信號

第一節 總則

第三十八條 信號ハ煙霧風雪等ニ因リ相當ノ距
離ヨリ其ノ現示ヲ識別シ難キトキハ夜間ノ法
式ニ依ルヘシ墜道内ニ於テ列車ニ向ヒ信號ヲ
現示スルトキ亦同シ

第三十九條 信號ヲ現示スヘキ場所ニ所定ノ法
式ニ依ル信號ノ現示ナキトキハ危害信號ト看
做スヘシ

第四十條 信號ハ二箇以上ノ線路又ハ二種以上
ノ目的ニ之ヲ兼用スルコトヲ得ス

第二節 信號機

第一款 常置信號機

第四十一條 常置信號機ノ主要ナル種類左ノ如
シ

- 一 場内信號機 停車場又ハ信號所ニ進入セ
ムトスル列車ニ對スル信號機ニシテ列車カ
其ノ防護區域内ニ進入スル可否ヲ表示ス
- 二 遠方信號機 列車カ該信號機ト場内信號
機ノ防護區域トノ間ニ於テ停止シ得ヘキ速
度ヲ以テ徐行スヘキカ又ハ相當速度ヲ以テ
進行スヘキカヲ表示ス
- 三 出發信號機 停車場又ハ信號所ヲ出發又

地方鐵道運轉信號保安規程

ハ通過セムトスル列車ニ對スル信號機ニシ
テ其ノ進行ノ可否ヲ表示ス

前項以外ノ常置信號機ヲ設ケムスルトキハ監
督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條 同一柱ニ同種類ノ信號二箇以上ヲ
現示スル裝置ヲ爲シタルトキハ最上位ニ在ル
モノハ最左側ノ線路ニ屬シ以下順次右方ノ線
路ニ屬ス

第四十三條 常置信號機ハ危害信號又ハ注意信
號ヲ現示スルヲ其ノ定位トシ必要ノ場合ニ於
テ無難信號ヲ現示ス

第四十四條 常置信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左
腕ノ位置又ハ燈色ヲ以テ左ノ法式ニ依リ信號
ヲ現示ス

地方鐵道運轉信號保安規程

一 場内信號機

危害信號（列車停止スヘシ）

晝間 腕ノ位置水平又ハ赤色燈

夜間 赤色燈

無難信號（列車進行スルコトヲ得）

晝間 腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈

夜間 綠色燈

二 遠方信號機

注意信號（列車徐行スヘシ）

晝間 腕ノ位置水平又ハ橙黃色燈

夜間 橙黃色燈

無難信號（列車進行スルコトヲ得）

晝間 腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈

燈

夜間 綠色燈

三 出發信號機

場内信號機ノ法式ニ同シ

第四十五條 常置信號機ノ腕ハ長方形トス但シ

遠方信號機ノ腕端ハ矢筈形トス

第四十六條 常置信號機ノ腕ハ表面ヲ赤色トシ

腕端ニ近ク之ト竝行シテ白色線ヲ畫シ背面ヲ

白色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ黑色線ヲ畫

ス

第四十七條 常置信號機ノ信號現示ヲ夜間後方

ヨリ識別スル爲左ノ背面部光ヲ現示スヘシ但シ

特別ノ設備アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

危害信號又ハ注意信號 大ナル白光

無難信號

小ナル白光

第四十八條 遠方信號機ハ場内信號機力無難信

號ヲ現示シタル後ニ非サレハ無難信號ヲ現示

スルコトヲ得ス

第二款 閉塞信號機

第四十九條 閉塞信號機ハ複線ニ於ケル閉塞區

間ノ始點ニ之ヲ設置スヘシ

第五十條 閉塞信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左腕

ノ位置又ハ燈色ヲ以テ左ノ法式ニ依リ信號ヲ

現示ス

一 注意信號ヲ現示スル装置アル場合

危害信號（列車停止スヘシ）

晝間 上位及下位ノ腕ノ位置水平又ハ

赤色燈

夜間 上位赤色燈及下位橙黃色燈又ハ

赤色燈

無難信號（列車進行スルコトヲ得）

晝間 上位及下位ノ腕ノ位置下向四十

五度又ハ綠色燈

夜間 上位及下位綠色燈又ハ綠色燈

注意信號（列車徐行スヘシ）

晝間 上位ノ腕ノ位置下向四十五度及

下位ノ腕ノ位置水平又橙黃色燈

夜間 上位綠色燈及下位橙黃色燈又ハ

橙黃色燈

二 注意信號ヲ現示スル装置ナキ場合

危害信號（列車停止スヘシ）

晝間 腕ノ位置水平又ハ赤色燈

地方鐵道運轉信號保安規程

地方鐵道運轉信號保安規程

夜間 赤色燈

無雜信號(列車進行スルコトヲ得)

晝間 腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈

夜間 綠色燈

第五十一條 閉塞信號機ノ腕端ハ注意信號ヲ現示スル裝置アルモノニ在リテハ上位ヲ尖形下位ヲ矢筈形トシ其ノ裝置ナキモノニ在リテハ之ヲ尖形トス

第五十二條 閉塞信號機ノ腕ハ表面ヲ赤色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ白色線ヲ畫シ背面ヲ白色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ黑色線ヲ畫ス

第五十三條 閉塞信號機ハ無雜信號ヲ現示スルヲ定位トシ列車カ閉塞區間ニ在ル間ハ危害信號

支障ナキ箇所迄徐行スルコトヲ得

第五十七條 閉塞信號機不其ノ場合ニ於テ列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメタルトキハ電氣通信ニ依リ前方ノ停車場、停留場又ハ信號所ノ承認ヲ受クヘシ

電氣通信ニ依ルコトヲ得サル場合ニ於テハ列車ノ乗務員ニ其ノ旨ヲ通告シ且先發列車カ前方ノ停車場、停留場又ハ信號所ニ到着スヘキ時刻ヲ經過シタル後ニ非サレハ列車ヲ出發セシムルコトヲ得ス

第三款 臨時信號機

第五十八條 臨時信號機ハ列車ノ停止又ハ徐行スヘキ區域ノ兩端ニ於テ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示ス

地方鐵道運轉信號保安規程

號ヲ現示ス

第五十四條 閉塞信號機ハ列車カ閉塞區間ニ進入シタルトキ自働作用ニ依リ危害信號ヲ現示シ列車カ閉塞區間ヲ通過シタルトキ閉塞區間ノ終點トノ關聯動作ニ依リ無雜信號又ハ注意信號ヲ現示スル裝置タルヘシ

第五十五條 閉塞區間ノ終點ニハ始點ニ於ケル閉塞信號機ノ信號現示ヲ覆示スル標識ヲ備フヘシ但シ自働閉塞信號機ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 列車カ自働閉塞信號機ノ危害信號ノ現示ニ依リ停止スル場合ニ於テ三分時ヲ經過スルモ無雜信號又ハ注意信號ヲ現示セサルトキハ一時間六哩ヲ超エサル速度ヲ以テ前方

一 危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 赤色圓板

夜間 赤色燈

二 注意信號(列車徐行スヘシ)

晝間 橙黃色圓板

夜間 橙黃色燈

三 無雜信號(徐行區域終了)

晝間 綠色圓板

夜間 綠色燈

臨時信號機ノ圓板ノ背面ハ白色トス

第五十九條 單線ニ於テ注意信號ヲ現示スル臨時信號機ハ其ノ背面ヲ綠色トシ反對方向ニ無雜信號ヲ現示スルコトヲ得

第三節 手信號

地方鐵道運轉信號保安規程

一一二

第六十條 手信號ハ信號機ノ設ケナキトキ又ハ之ヲ使用スルコト能ハサルトキ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示ス

一 危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 赤色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク舉ケ又ハ物體ヲ急激ニ振り廻シ之ニ代フルコトヲ得

夜間 赤色燈ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ何色ノ燈ニテモ急激ニ振り廻シ之ニ代フルコトヲ得

二 注意信號(列車徐行スヘシ)

晝間 橙黄色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ上下ニ動か

シ之ニ代フルコトヲ得

夜間 橙黄色燈ヲ提示ス

三 無難信號(列車進行スルコトヲ得)

晝間 綠色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ片腕ヲ高ク舉ケ之ニ代フルコトヲ得

夜間 綠色燈ヲ提示ス

第六十一條 一人ニテ同時ニ二箇以上ノ手信號ヲ現示スルコトヲ得ス

第四節 發雷信號

第六十二條 發雷信號ハ雷管ノ爆音ニ依リ信號ヲ現示ス

列車ハ發雷信號ノ現示アリタルトキハ停止スヘシ

第六十三條 發雷信號ハ左ノ場合ニ之ヲ使用スヘシ

一 煙霧風雪等ニ因リ相當距離ヨリ夜間ノ法式ニ依ル危害信號ノ現示ヲ確認シ難キトキ

二 事故其ノ他ノ事由ニ因リ列車途中ニ停止シ又ハ線路ヲ一時閉鎖シタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ危害信號ノ現示アル場所ノ前方二十箇以上ニ於テ雷管ヲ裝置スヘシ

第一項第二號ノ場合ニ於テハ停止列車又ハ閉鎖線路ノ兩端ヨリ單線ニ在リテハ前後各二十箇以上、複線ニ在リテハ後方同距離以上ニ於テ雷管ヲ裝置スヘシ但シ最近ノ停車場、停留場又ハ信號所ニ其ノ旨ヲ通知シタルトキハ該

地方鐵道運轉信號保安規程

方面ニ對シ雷管ノ裝置ヲ要セス
雷管ハ相當距離ヲ隔テ二箇以上ヲ軌條ニ裝置スヘシ

第五節 合圖

第六十四條 車輛ノ入換合圖ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

一 前進スヘシ

晝間 綠色旗ヲ上下ニ振ル但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ片腕ヲ上下ニ動かシ之ニ代フルコトヲ得

夜間 綠色燈ヲ上下ニ振ル

二 推進スヘシ

晝間 綠色旗ヲ左右ニ振ル但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ片腕ヲ左右ニ動か

一一三

地方鐵道運轉信號保安規程

一一四

カシ之ニ代フルコトヲ得
夜間 綠色燈ヲ左右ニ振ル
三 停止スヘシ

晝間 赤色旗ヲ提示ス但シ已ムコトヲ
得ザル場合ニハ兩腕ヲ高ク舉ケ之ニ
代フルコトヲ得

夜間 赤色燈ヲ提示ス

第六十五條 列車出發ノ際車掌ヨリ機關手又
ハ運轉手ニ對シテ爲ス合圖ハ式ノ法式ニ依ル
ヘシ

晝間 片腕ヲ水平ニ伸ヘ手笛ヲ長聲ニ
吹ク
夜間 綠色燈ヲ高ク圓形ニ動カシ手笛
ヲ長聲ニ吹ク

第六十六條 保線係員、踏切番人等ニ向ヒ直ニ
線路ヲ検査スヘキ旨ヲ通告スル必要アル場合
ニ於テ列車乗務員ノ爲ス合圖ハ左ノ法式ニ依
ルヘシ

晝間 帽又ハ他ノ物體ヲ緩ニ振ル
夜間 白色燈ヲ緩ニ振ル

第六十七條 汽笛合圖ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

一 列車カ運轉ヲ始メムトスルトキ其ノ他注
意ヲ促ストキ 適度ノ汽笛一聲

二 列車ノ近ケルヲ停車場、停留場又ハ往來
頻繁ナル踏切道ニ知ラシムルトキ 長緩汽笛一聲

三 制動機ノ緊締ヲ促ストキ 短急汽笛三聲
四 制動機ノ緩解ヲ促ストキ適度ノ汽笛二聲

五 非常ノ事故ヲ警告シ又ハ保線係員ヲ招集
スルトキ 短急汽笛數聲

第六節 標識

第六十八條 轉轍器標識ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

一 轉轍器

定位ニ在ルトキ

晝間 前方及後方へ中央ニ白色線一條
ヲ横ニ畫シタル紫色圓板

夜間 前方及後方へ紫色燈

定位ニ在ラサルトキ

晝間 前方及後方へ中央ニ黑色線一條
ヲ矢筈ニ畫シタル黄色矢羽形板

夜間 前方及後方へ黄色燈

二 脱線轉轍器

地方鐵道運轉信號保安規程

定位ニ在ルトキ

晝間 前方及後方へ中央ニ白色線一條
ヲ横ニ畫シタル赤色長方形板

夜間 前方及後方へ赤色燈

定位ニ在ラサルトキ

晝間 前方及後方へ中央ニ黑色線一條
ヲ横ニ畫シタル白色圓板

夜間 前方及後方ニ綠色燈

第六十九條 夜間車止ノ位置ヲ示ス必要アルト
キハ車止ニ白色燈ヲ掲ケヘシ

第四章 列車保安

第一節 總則

第七十條 列車保安ハ左ノ法式ニ依ルヘシ但シ
閉塞信號機ヲ設置スル區間及全編ヲ通シ二箇

一一五

地方鐵道運轉信號保安規程

一一六

以上ノ列車ヲ運轉スルコトナキ鐵道ニ在リテ
ハ此ノ限ニ在ラス

一 複線ノ場合

閉塞器式

二 單線ノ場合

電氣通票器式、通票式又ハ票券式

第七十一條 列車保安ハ左ノ場合ニ限リ指導法

ニ依ルコトヲ得

一 事故其ノ他ノ事由ニ因リ一時線路ヲ中斷

シ又ハ複線ニ於テ一線ヲ一時閉鎖シタルト

キ

二 電氣通票ノ破損又ハ喪失シタルトキ

三 電氣通票器ノ不良ナルトキ

四 通票ノ破損又ハ喪失シタルトキ

一 腕ノ位置ニ依ル場合

列車前方ニ進行ス

向テ左腕ノ位置水平

列車前方ヨリ進行シ來ル

向テ右腕ノ位置水平

閉塞區間ニ列車ナシ

腕ノ位置下向四十五度

二 燈ノ色ニ依ル場合

列車前方ニ進行ス

向テ左方

列車前方ヨリ進行シ來ル

向テ右方

閉塞區間ニ列車ナシ

地方鐵道運轉信號保安規程

第七十二條 地方鐵道業者ハ列車保安ノ法式ヲ
定メ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ之ヲ變更シタ
ルトキ亦同シ

第二節 閉塞器式

第一款 閉塞器式

第七十四條 閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間ノ兩

端ニハ閉塞器ヲ備フヘシ

第七十五條 閉塞器ハ閉塞區間ニ列車ノ有無ヲ

表示スル腕又ハ燈ヲ備ヘ電鈴及電話機ヲ添裝

スヘシ

第七十六條 閉塞器ノ表示ハ左ノ法式ニ依ルハ

第七十七條 閉塞器ノ表示ハ對手ノ停車場又ハ

信號所ノ閉塞器ノ表示ト聯動シ且列車前方ニ

進行スノ表示ハ前方ノ停車場又ハ信號所ヨリ

操縱スルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得サ

ル裝置タルヘシ

第七十八條 閉塞器ノ電鈴合圖ハ左ノ法式ニ依

ルヘシ

一 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルト

キ又ハ承認ヲ與ヘムトスルトキ 二打

二 列車到着シタルトキ又ハ之カ應答 四打

三 通信ヲ爲サムトスルトキ又ハ之カ應答

三打

第七十九條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムト

スルトキハ閉塞器ニ依リ前方ノ停車場又ハ信

一一七

地方鐵道運轉信號保安規程

號所ニ其ノ合圖ヲ爲シ之カ承認ヲ受ケヘシ

第八十條 前條ノ承認ハ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ之ヲ與フルコトヲ得ス

一 閉塞區間ニ列車ナキコト

二 承認ヲ與ヘムトスル列車ノ到着線路ニ支障ナキコト

車輛ノ入換ヲ爲ストキ及到着セムトスル列車カ汽動車又ハ電車ナルトキハ線路其ノ他ノ狀況ニ依リ前項第二號ノ條件ヲ具備セサルモ承認ヲ與フルコトヲ得

承認ハ閉塞器ノ表示ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第八十一條 閉塞器不良ノ場合ニ於テ列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ第五十七條ノ規定ヲ準用ス

三 電氣通票器ニハ隣接閉塞區間ニ使用スル

通票ヲ納入シ得サルコト

第八十三條 列車ハ常該閉塞區間ノ通票ヲ携帯スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第八十四條 隣接閉塞區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスヘシ

第八十五條 列車ノ運轉ニ使用シタル通票ハ之ヲ電氣通票器ニ納入スルニ非サレハ他ノ列車ノ運轉ニ使用スルコトヲ得ス

第八十六條 第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ電氣通票器式ニ之ヲ準用ス

第三款 通票式

第八十七條 通票式ヲ施行スル區間ニハ通票ヲ

第二款 電氣通票器式

第八十二條 電氣通票器式ヲ施行スル閉塞區間ノ兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ電氣通票器ヲ備フヘシ

電氣通票器ハ通票ヲ收容シ閉塞區間ニ列車ノ有無及方向ヲ表示スル標識ヲ備ヘ電鈴及電話機ヲ添裝シ左ノ條件ヲ具備スル裝置タルヘシ

一 通票ハ對手ノ停車場又ハ信號所ト協同スルニ非サレハ之ヲ取出スコトヲ得サルコト

二 閉塞區間ノ兩端ニ於ケル電氣通票器ニ收容セラレタル通票ハ一箇ニ限り取出スコトヲ得他ノ通票ハ取出サレタル通票ヲ電氣通票器ニ納入スルニ非サレハ之ヲ取出スコトヲ得サルコト

備フヘシ

通票ハ一閉塞區間一箇トス

第八十八條 通票ニハ常該閉塞區間ノ兩端ノ停車場名又ハ信號所名ヲ記スヘシ

第八十九條 第八十三條及第八十四條ノ規定ハ通票式ニ之ヲ準用ス

第三節 票券式

第九十條 票券式ヲ施行スル區間ニハ通票及通券ヲ備フヘシ

通票ハ一保安區間一箇トス

通券ハ各保安區間ノ兩端ノ停車場又ハ信號所ニ之ヲ備フヘシ

第九十一條 通票ニハ常該保安區間ノ兩端ノ停車場名又ハ信號所名ヲ記スヘシ

隣接保安區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスヘシ

第九十二條 通券ニハ當該保安區間ノ兩端ノ停車場名又ハ信號所名ヲ記スヘシ

隣接保安區間ノ通券ハ其ノ色ヲ異ニスヘシ

第九十三條 通券ハ當該保安區間ノ通票ヲ以テ

スルニ非サレハ開クゴトヲ得サル通券函ニ之ヲ保管スヘシ

通券ハ列車ニ授與スルトキニ非サレハ通券函

ヨリ之ヲ取出スコトヲ得ス

第九十四條 列車ハ當該保安區間ノ通票又ハ通

券ヲ携帯スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スル

コトヲ得ス

第九十五條 通券ハ同一保安區間ニ二箇以上ノ

列車ヲ同一方向ニ運轉スル場合ニ於テ先發列

車ニ限リ之ヲ使用スヘシ

第九十六條 通券ハ發行ノ月日、當該列車番號

及通票ヲ携帯スヘキ列車番號ヲ記載シ之ヲ發

行スヘシ

第九十七條 通券ヲ携帯スル列車ハ退行スルコ

トヲ得ス

第九十八條 通券ヲ列車ノ乗務員ニ交付スルト

キハ當該保安區間ノ通票ヲ呈示スヘシ

列車ノ乗務員ハ當該保安區間ノ通票ヲ確認ス

ルニ非サレハ通券ヲ受領スルコトヲ得ス

第四節 指導法

第九十九條 指導法ヲ施行スル場合ニ於テハ一

區間一人ノ指導者ヲ定メ赤色ノ腕章ヲ附セシ

ムヘシ

第一百條 指導者ノ氏名及擔當區間ハ指導者ノ乘

込前之ヲ關係係員ニ告知スヘシ

第一百一條 指導者ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得

但シ通票式ヲ施行スル區間ニ在リテハ此ノ限

ニ在ラス

第一百二條 閉塞器式及電氣通票器式ヲ施行スル

區間竝閉塞信號機ヲ設置スル區間ニ於テハ電

氣通信ヲ以テ前方ノ停車場又ハ信號所ノ承認

ヲ受クルニ非サレハ指導者ハ列車ニ乗込ミ又

ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得ス

電氣通信ニ依ルコトヲ得サル場合ゴハ第五十

七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第一百三條 列車ハ指導者乗込ムカ又ハ指導券ヲ

携帯スルニ非サレハ指導法ヲ施行スル區間ヲ

運轉スルコトヲ得ス

第一百四條 列車ノ乗務員ハ指導者ヨリ直接指導

券ノ交付ヲ受ルニ非サレハ之ヲ受領スルコト

ヲ得ス

第一百五條 指導法ヲ廢止セムトスル場合ニ於テ

ハ指導法ニ依リ最終ニ運轉スル列車ニハ指導

者ヲ乗込マシメ且廢止後ニ施行スル保安法式

ヲ併用スヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外指導法ト他ノ保安法式

トヲ併用スルコトヲ得ス

第一百六條 第九十二條、第九十五條乃至第九十

七條ノ規定ハ指導券ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道運輸信託保安規程

輕便鐵道營業規程ハ之ヲ廢止ス
本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受タヘキ事項ニシテ
舊規程ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ハ本
令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
舊規程ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行
爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ
本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

鐵道運輸規程

(明治三十三年八月十日)
逓信省第三六號

明治四十二年六月 大正二年十月
閣令第四號 同第五號
同八年六月 同第七號
改正

鐵道運輸規程左ノ通定ス

鐵道運輸規程

第一章 總則

第一條 鐵道係員ハ運輸上ノ安全便益ヲ旨トシ
旅客及公衆ニ對シ懇切ニ其ノ職務ヲ行フヘシ
第二條 旅客及公衆ハ鐵道係員ノ職務上ノ指圖
ニ從フヘシ
第三條 鐵道ハ主要ナル停車場ニ申告簿ヲ備置

鐵道運輸規程

クコトヲ要ス

第四條 旅客貨物ノ取扱ニ關シ鐵道ノ處置ニ不
當ノ廉アリト認ムル者ハ前條ノ申告簿ニ記載
シ抗告ノヲ爲スコトヲ得
申告簿ニ依リ抗告ヲ爲ス者ハ事實ヲ詳記シ其
ノ住所ヲ記シ署名スルコトヲ要ス
鐵道ハ氏名住所ヲ明示シタル抗告ニ付テハ遲
滯ナク辯明ヲ與フヘシ
第五條 停車場ニハ見易キ場所ニ驛名ヲ明示シ
其ノ他旅客ノ指導タルヘキ標示ヲ爲スヘシ
第六條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運賃表、列車
時刻表其ノ他運輸上必要ナル諸表規則等ヲ備
付ケ公衆ノ閱覽ニ供スヘシ
第七條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運送ニ必要ナ

鐵道運輸規程

ル事項及鐵道ノ取締ニ關スル法令其ノ他ノ條
項ヲ摘要シテ之ヲ揭示スヘシ

第八條 效用ヲ失ビタル諸揭示類ハ即時ニ之ヲ
撤去スヘシ

第九條 停車場ニハ時計ヲ備付ケ正確ニ時刻ヲ
齊正スヘシ

第二章 旅客運送

第十條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場ヨ
リノ列車出發時刻及終著驛名並適宜連絡列車
ノ終著驛名ヲ揭示スヘシ

第十一條 停車場ニハ當該線路ニ於ケル列車時
刻表運賃及必要ニ應シ他ノ關係線路ニ於ケル
時刻表、運賃表及必要ニ應シ他ノ關係線路ニ
於ケル時刻表及運賃表ノ摘要ヲ揭示スヘシ

前項ノ時刻表ニハ列車ニ聯結スル客車ノ等級
及種類ヲ表示スヘシ

第十二條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場
ヨリノ旅客運賃表ヲ揭示スヘシ

第十三條 四年未滿ノ小兒ハ無賃滿四年以上十
二年未滿ノ小兒ハ半賃金ヲ以テ運送スヘシ

第十四條 乘車券ニハ通用區間及期限、客車ノ
等級運賃額並ニ發行ノ日附ヲ記載スヘシ
特種及臨時發行ノ乘車券ニ在リテハ前項ノ記
載事項ヲ省略スルコトヲ得

第十五條 停車場ニ於テハ少クとも列車ノ出發
時刻十五分前ニ乘車券ノ賣出ヲ開始スヘシ交
通頻繁ナル停車場ニ於テハ少クとも一時間前
ニ之ヲ開始スヘシ

出札ハ列車出發時刻五分前迄ハ之ヲ停止スル
コトヲ得ス

改札口ハ同一分前迄ハ之ヲ閉鎖スルコトヲ得
ス

第十六條 鐵道ハ旅客ニ對シ運賃金額正算拂渡
ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 旅客ハ改札前ニ在リテハ其ノ買受ケ
タル乘車券ヲ他級ノ乘車券ト交換シ又ハ之ヲ
返還シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ
運賃拂戻ノ請求ハ乘車券發行ノ當日ニ限ル乘
車券相當ノ坐席ナキ場合ニ於テ鐵道係員カ優
等車ニ一時便乗ノ取扱ヲ爲ササルトキハ旅客
ハ選擇ニ依リ旅行ヲ止メ又ハ劣等車ニ移乗シ
テ運賃ノ全額又ハ差額ノ拂戻ヲ請求スルコト
ヲ得

鐵道運輸規程

ヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ鐵道係員ニ申
告スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ノ外旅客ハ乘車券ヲ返還シ運賃
ノ拂戻ヲ受ケ又ハ劣等車ニ乗換ノ請求ヲ爲ス
コトヲ得ス

改札後ト雖坐席ノ餘裕アルトキハ旅客ハ何時
ニテモ運賃差額ヲ支拂ヒ優等車へ乗換ノ請求
ヲ爲スコトヲ得

第十八條 乘車券ハ其ノ通用區間中何レノ部分
ニ付テモ之ヲ使用スルコトヲ得但シ特種ノ列
車ニ付監督官廳ノ認可ヲ得テ別段ノ定メ爲シ
タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ乘繼驛限定ノ效ヲ妨ケス
第十九條 天災事變其ノ他已ムテ得サル事由ニ

因リ列車ノ運轉ヲ中斷シタルトキハ旅客ニ對シ相當ノ便宜ヲ與ヘ及保護ヲ爲スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ旅客ノ請求アルトキハ既ニ通過セル線路ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額ノ拂戻ヲ爲シ且出發停車場ヘ無賃送還スヘシ
 第二十條 列車遲延ノ爲相當ノ時間中ニ接續スル列車ニ乗車スルコトヲ得サルトキハ連絡乗車券ヲ有スル旅客ニ限リ其ノ請求ニ因リ無賃ニテ出發停車場(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停車場)ニ送還シ出發停車場ヨリノ運賃(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停車場ト出發停車場トノ間ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額)ヲ拂戻スヘシ但シ旅客力次回ノ返リ列車ヲ以テ中斷ナク復歸スルトキニ限ル

第二十一條 旅客力任意ニ劣等車ニ便乘シタルトキハ運賃差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス
 第二十二條 事故ノ爲列車發着ノ遲延、運轉ノ中斷等アリタルトキハ關係停車場ニ遲滞ナク之カ揭示ヲ爲スヘシ
 第二十三條 乗車券ヲ所持セス又ハ無效ノ乗車券ヲ以テ乗車シ若ハ檢査ノ際乗車券ノ呈示ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル旅客ニ對シ鐵道ハ普通運賃二倍以内ノ割増運賃ヲ請求スルコトヲ得
 乗車券ヲ買受クルノ暇ナク鐵道係員ノ許諾ヲ得テ乗車シタル旅客ニ對シ鐵道ハ二十鐘以内ノ増拂ヲ請求スルコトヲ得
 割増運賃又ハ増拂ノ支拂ヲ受ケタルトキハ之

ニ對スル證券ヲ交付スヘシ

第二十四條 列車出發時刻五分前ニ至ルトキハ鐵道係員ハ鳴鈴其ノ他便宜ノ方法ニテ發車ノ注意ヲ與フヘシ

第二十五條 列車ハ揭示時刻表ニ示サレタル時刻前出發モシムルコトヲ得ス

揭示時刻表ニ掲ケタル列車ノ運轉ハ天災事變其ノ他已ムテ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支障アルトキ若ハ之ヲ豫知シタルトキノ外休止スルコトヲ得ス

第二十六條 鐵道係員ハ旅客ノ請求アリタルトキハ坐席ヲ指定スヘシ

必要ト認ムルトキハ旅客ノ請求ナキ場合ト雖坐席ノ指定ヲ爲スコトヲ得

旅客乗車中坐席ヲ離レ特ニ之ヲ占置カサルトキハ他人之ヲ占取スルモ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十七條 囚徒ヲ乗車セシムルトキハ普通旅客ト之ヲ區別スヘシ

第二十八條 列車出發ノ合圖アリタル後ハ旅客ハ乗車スルコトヲ得ス

出發時刻ニ後レタル爲發行當日限り通用ノ乗車券ノ效用ヲ失フニ至リタルトキハ其ノ翌日內ニ限り該乗車券ヲ以テ目的地ニ向ヒ發スル列車ニ乗車スルコトヲ得但シ乗後レノ際遲滞ナク其ノ乗車券ヲ鐵道係員ニ提出シ有效ノ證明ヲ受ケタルトキニ限ル

特ニ列車ヲ指定シタル乗車券ノ通用期限ハ前

鐵道運輸規程

項ノ規定ニ依リテ延長セラルルコトナシ

第二十九條 旅客ハ同乗者ニ迷惑ヲ及ボス風體
行爲ヲ爲スヘカラス

車扉ニ凭リ又ハ肢體ヲ車外ニ出タスヘカラス
車内ノ器具、裝飾物ヲ汚損セサル様注意ヲ爲
スヘシ

燐寸ノ燃差、煙草ノ吸殻及唾等ヲ唾壺ノ外ニ
投スヘカラス

鐵路係員、通行人等ノ危險ヲ與フルノ虞アル
物品ハ獲ニ之ヲ投棄スヘカラス

第三十條 途中客車ニ不足ヲ生シタルトキハ遲
滯ナク之ヲ補充ノ準備ヲ爲スヘシ

第三十一條 列車カ停車場ニ到着シタルトキハ
鐵道係員ハ停車場ノ名稱、乗換アルトキハ其

ノ旨並停車時間五分以上アルトキハ其ノ時間
ヲ喚呼スヘシ

鐵道係員ハ停車場ニ下車スル旅客ノ爲速ニ車
扉ヲ開クヘシ

列車カ停車場ニ於テ停止スルトキハ縱令長時
間ニ涉ルト雖鐵道係員ノ許諾ヲ得ルニ非サル
ハ下車スルコトヲ得ス

第三十二條 三時間ニ少クトモ一回五分以上停
車セサル列車ニハ各客車ニ便所ノ備アルコト
ヲ要ス

第三十三條 旅客自ラ携帶シ得ル物品ニシテ坐
席ヲ塞カス且不潔、臭氣等ノ爲同乗者ニ迷惑
ヲ及ボサルモノハ客車内ニ持込ムコトヲ得
前項ノ物品ニ對シテハ旅客自ラ保管ノ責ニ任

スルモノトス

第三十四條 犬其ノ他ノ動物ハ客車内ニ携伴ス
ルコトヲ得ス但シ特約ニ依リ車室ヲ專用スル
場合ニ於テ鐵道係員ノ許諾ヲ得タルトキハ此
ノ限ニ在ラス

第三十五條 携帶制限ヲ超ユル火藥及危害ヲ他
ニ及ボスヘキ虞アル物品ハ客車内ニ持込ムコ
トヲ得ス

第三章 託送手荷物

第三十六條 旅客カ其ノ旅行ニ必要ナル物品ハ
手荷物トシテ之ヲ託送スルコトヲ得但シ貨幣
有價證券其ノ他ノ高價品及動物ハ此ノ限ニ在
ス

特種ノ列車ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ手

鐵道運輸規程

荷物ノ運送ヲ取扱ハサルコトヲ得

第三十七條 火藥類及危害ヲ他ニ及ボスヘキ虞
アル物品、臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品及容
積重量過大ナル物品ハ手荷物トシテ託送スル
コトヲ得ス

第三十八條 鐵道ハ旅客一人ニ付少クトモ三十
斤迄ノ手荷物ヲ無賃ニテ運送スルノ便ヲ與フ
ヘシ

半賃金ニテ運送スル小兒ノ無賃手荷物斤量ハ
前記斤量ノ半ヲ以テ制限トス
割引乗車券ヲ以テ乗車スル旅客ノ手荷物ニ付
テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ前二項ノ規定ニ依
ラサルコトヲ得

第三十九條 斤量ニ依リ運賃ヲ定メサル特定物

鐵道運輸規程

品ハ小荷物トシテ託送ノ手續ヲ爲スヘシ
前項ノ物品ニ付テハ鐵道ハ其ノ種類及運賃ヲ
特定シテ監督官廳ノ認可ヲ得之ヲ停車場ニ掲
示スルコトヲ要ス

第四十條 託送手荷物ハ物品ノ散逸セラル様續
錠緊束シ紛ラハシキ他ノ運送標記等ヲ附著ス
ヘカラス

第四十一條 手荷物ヲ託送スル者ハ第十五條ニ
規定スル乘車券賣出時間内ニ其ノ手續ヲ爲ス
ヘシ但シ列車出發時刻ヨリ少クトモ五分前ニ
之カ手續ヲ爲ササルトキハ次回ノ列車ヲ以テ
運送セラルルモ故障ヲ述フルコトヲ得ス

第四十二條 手荷物ヲ託送スル者ハ其ノ乘車券
ヲ鐵道係員ニ呈示スヘシ

一三〇

第四十三條 手荷物ノ託送ヲ受ケタルトキハ引
換ノ符票ヲ交付シ之ト引換ニ引渡ヲ爲スモノ
トス

第四十四條 手荷物受取ノ際前條引換ノ符票ヲ
所持セサルトキハ其ノ受取ルヘキ權利アルコ
トヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレ
ハ之カ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十五條 託送手荷物ハ其ノ到達停車場ニ於
テ之カ引渡ヲ爲スヘキモノトス但シ時間其ノ
他取扱ニ差支ナキトキハ旅客ノ請求ニ應シ中
間停車場ニ於テモ之カ引渡ヲ爲スヘシ
前項但書ノ場合ニ於テハ旅客ハ豫メ鐵道係員
ニ乘車券ヲ呈示シ引渡ノ請求ヲ爲スヘシ
第一項但書ノ場合ニ於テハ手荷物運賃ノ拂戻

ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十六條 第十九條及第二十條ノ場合ニ於テ
旅客ヲ送還スルトキハ該旅客ノ託送セル手荷
物ハ旅客ト共ニ之ヲ無賃送還スヘシ此ノ場合
ニ於テ手荷物運賃ノ償還ハ旅客運賃ノ例ニ依
ル

第四十七條 手荷物到達後二十四時間内ニ引取
ラサルトキハ保管料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表
ニ附記シテ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十八條 鐵道ハ惡意又ハ重大ナル過失ニ因
ラサル手荷物ヘ減失又ハ毀損ニ付テハ旅客一
人ニ對シ價格百圓以内ニ限り損害賠償ノ責ニ
任スルモノトス

鐵道運輸規程

第四十九條 紛失手荷物ニ對シ賠償ヲ爲シタル
後豫メ請求アリタル場合ニ於テハ其ノ手荷物
ヲ發見シタルトキ速ニ旅客ニ之ヲ通知スルコ
トヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ賠
償金ヲ還付シ手荷物到達地又ハ託送地迄無料
ニテ該手荷物ノ送付返還ヲ請求スルコトヲ得
旅客カ本條ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ賠償
金額收ノ際書面ヲ以テ之カ豫告ヲ爲スモノト
要ス

第四章 小荷物(小貨物)運送

第五十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル貨
物ハ小荷物トシテ旅客列車(混合列車亦同シ)
ヲ以テ運

鐵道運輸規程

送ノ便ヲ開クヘシ

第三十六條第二項ノ規定ハ小荷物ニ之ヲ準用ス

第五十一條 第三十九條ノ物品ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十二條 行商人及呼賣商人ノ攜帶スル商品ハ其ノ請求ニ因リ小荷物トシテ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十三條 小荷物ヲ託送セムトスル者ハ列車出發時刻ヨリ少クトモ二十分前迄ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ但シ第五十一條及五十二條ノ小荷物ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 第三十七條、第四十條、第四十三條及第四十四條ノ規定ハ小荷物ノ運送ニ之ヲ

準用ス

第五十五條 第四十二條、第四十三條乃至第四十七條ノ規定ハ第五十一條及五十二條ノ小荷物ニ之ヲ準用ス

第五十六條 小荷物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第五章 死體運送

第五十七條 死體ヲ託送セムトスル者ハ列車始發停車場ニ於テハ其ノ出發時刻ヨリ少クトモ六時間前迄ニ、中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少クトモ十二時間前迄ニ其ノ申込ヲ爲スヘシ

第五十八條 死體ハ堅固ナル棺槨ニ納メ密塞ス

第五十九條 死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ且運送狀ニ其ノ寫ヲ添ヘ差出スヘシ

第六十條 死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附スヘシ

第六十一條 死體ハ手荷物車又ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スルモノトス但シ特別車ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 死體ハ他ノ荷物ト離隔搭載スヘシ 飲食物及其ノ原料等ハ死體ト同一車中ニ共載スルコトヲ得ス

第六十三條 死體搭載ノ車輛ハ託送人ノ請求アル場合ノ外旅客列車(混合列車亦同シ)ニ聯結スヘシ

死體ハ成ルヘク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スヘシ又已ムヲ得サル場合ノ外運送中ニ之ヲ轉載スルコトヲ得ス

第六十四條 死體ハ到達後速ニ之ヲ引取ルヘシ 若シ六時間内ニ引取ラサルトキハ鐵道ハ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六章 貴重品運送

第六十五條 金銀貨並貴金屬、紙幣、郵便切手同葉書、印紙、有價證券、寶玉石等貴重品ノ運送ニ付請求スル増賃金ハ左ノ割合ヲ超過スヘカラス

一 二十五哩未滿

價格金百圓ニ付(金百圓者)金 十 錢

一 二十五哩以上五十哩未滿

一三三

鐵道運輸規程

鐵道運輸規程

一三四

- 一 五十哩以上百哩 同 金十五錢
 - 一 百哩以上二百哩未滿 同 金二十錢
 - 一 二百哩以上ハ二百哩ヲ増ス毎ニ 同 金二十五錢
 - 一 二百哩以上ハ二百哩ヲ増ス毎ニ 同 金五錢
- 前項ノ規定ニ準據シ増賃金ノ割合ヲ定ムルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ
- 増賃金ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スルコトヲ要ス
- 第六十六條 前條ニ明記シタル品目ノ外貴重品ノ品目ヲ定ムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

- 第六十七條 貴重品ハ嚴重ニ包裝封印シ列車出發時刻ヨリ少クトモ三十分前迄ニ託送ノ手續ヲ爲スヘシ
- 貴重品託送者ハ運送狀ヲ差出スヘシ
- 増賃金ノ支拂ニ對シテハ受領書ヲ交付スヘシ
- 第六十八條 貴重品ノ運送ハ特ニ定メタル列車ニ限ルコトヲ得此場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス
- 第六十九條 貴重品ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス
- 第七章 動物運送
- 第七十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル小

- 動物ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送ノ便ヲ開ケヘシ
- 第七十一條 旅客ノ携帯スル小動物ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ
- 第七十二條 小動物ハ其ノ到達停車場ニ於テ即時ニ之ガ引取ヲ爲スヘシ
- 之カ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ
- 第七十三條 旅客ノ携帯スル犬ヲ除ク外小動物ハ逸出ノ虞ナキ籠籠、網若クハ箱等ニ納レテ送スヘシ
- 第七十四條 旅客列車(混合列車亦同シ)ニ依ル小動物ノ運送ニ付テハ前各條ニ定アル場合ヲ除ク外小荷物運送ニ關スル規定ヲ準用ス

- 第七十五條 鐵道ハ動物ノ運送ニ付附添人ヲ請求スルコトヲ得
- 附添人ノ乗車賃ハ下等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス
- 附添人ハ動物ヲ監視シ驛長ノ認諾ヲ受クルニ非サレハ他車ニ轉乘スルコトヲ得ス
- 附添人ハ糞、枯草等燃エ易キ物品アルトキハ喫煙具及發火シ易キ物品ヲ車中ニ携帯スルコトヲ得ス
- 第七十六條 猛獸ヲ託送セムトスル者ハ逸走其ノ他危害防止ノ爲充分ナル羈絆ヲ施スヘシ
- 第七十七條 動物ヲ託送セムトスル者ハ豫メ其ノ申込ヲ爲シ列車出發時刻ヨリ少クトモ一時間前迄ニ之ヲ停車場ニ送致スヘシ

鐵道運輸規程

一三五

鐵道運輸規程

鐵道カ動物運送列車ヲ定メテ公告シタルトキ
 ハ託送人ハ前項ノ申込ヲ爲スコトヲ要セス
 第七十八條 動物ノ積卸ハ鐵道ノ請求アルトキ
 ハ託送人受取人ニ於テ之ヲ擔當シ且之ニ要ス
 ル材料ヲ準備スヘシ
 第七十九條 小動物ノ外動物ハ到站ノ通知ヲ受
 ケタル後速ニ之カ引取ヲ爲スヘシ之カ引取ヲ
 爲ササル時ハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ
 第八十條 託送ノ際價格ヲ明告シ鐵道ノ請求ニ
 因リ増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道ノ惡意
 又ハ重大ナル過失ニ因ラサル獸類ノ紛失損傷
 ニ付テハ左ニ掲クル金額以內ニ限リ賠償ヲ請
 求スルコトヲ得

一 乳牛	同	金百圓
一 牛	同	金三十圓
一 犢	同	金十圓
一 羊	同	金十圓
一 豚	同	金五圓
一 山羊	同	金十圓
一 其ノ他ノ獸類	同	金五圓
第八十一條 託送ノ際明告セラレタル價格前條 制限額ヲ超ユルトキハ鐵道ハ其ノ超過額ニ對 シ左ニ掲クル割合以內ニ於テ増賃金ヲ請求ス ルコトヲ得		
一 五十哩未滿	價格金十圓ニ付 <small>(金十圓未滿)</small>	金十圓
一 五十哩以上百哩未滿		金七十圓

同 金十五圓
 一 百哩以上二百哩未滿 金二十圓
 同 金五圓
 前項ノ規定ニ準據シ増賃金ヲ定ムルトキハ監
 督官廳ニ届出ツヘシ
 増賃金ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スルコト
 ヲ要ス
 第八十二條 動物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定メ
 ル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス
 第八章 大荷物(大貨物)運送
 第八十三條 鐵道カ直ニ運送ヲ爲スコトヲ得サ
 ル場合ニ於テ特約ヲ以テ發送迄保管ノ爲貨物

ノ引渡ヲ受ケタルトキハ運送狀ニ特約ノ條件
 ナ明記スルコトヲ要ス
 荷送人ハ鐵道ノ承諾ヲ得テ停車場其ノ他ノ鐵
 道地内ニ自己ノ責任ヲ以テ發送迄一時貨物ヲ
 留置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鐵道ハ相
 當ノ留置料ヲ請求スルコトヲ得
 第八十四條 貨物ヲ託送セムトスル者ハ貨物取
 扱時間内ニ運送狀ヲ添ヘ其ノ手續ヲ爲スヘシ
 第八十五條 運送狀ニハ左ノ事項ヲ掲クルコト
 ヲ要ス

- 一 運送狀作成ノ地及年月日
- 二 發送停車場ノ名稱
- 三 到達停車場及所屬鐵道名
- 四 届先、荷受人ノ氏名又ハ商號及住所

鐵道運輸規程

鐵道運輸規程

一三八

- 五 貨物ノ品名、重量又ハ容積及其ノ荷重ノ種類、箇數並記號
 - 六 價格ヲ明告スヘキトキハ其ノ價格
 - 七 運送便ノ種類
 - 八 運賃ノ支拂方法
 - 九 貨物引換證請求ノ有無
 - 十 特約ノ條件アルトキハ其ノ事項
 - 十一 荷送人ノ氏名又ハ商號及住所
- 第八十五條ノ二 運送狀ニ記載シタル貨物ノ品名、重量、容積又ハ箇數ニ基キ計算シタル運賃力正當運賃ニ不足スル場合ニハ鐵道ハ不足額ノ外其ノ十倍以内ノ増運賃ヲ請求スルコトヲ得
- 荷送人カ火藥類其ノ他危害ヲ他ニ及ホスヘキ

虞アル品物ヲ他ノ品名ニ依リ託送シタルトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外鐵道ハ其實斤量ニ對シ一斤ニ付金三圓以内ノ増運賃ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第八十六條 鐵道ハ運送狀ノ式紙ヲ停車場ニ備置キ荷送人ノ使用ニ供スヘシ

第八十七條 託送ノ際荷送人ノ請求アルトキハ鐵道ハ運送狀ノ原本ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ金五圓以内ノ手数料ヲ請求スルコトヲ得

第八十八條 鐵道ハ貨物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ運送狀ニ其ノ受付番號ヲ記入スヘシ

第八十九條 貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ掲グル

コトヲ要ス

- 一 貨物引換證作成ノ地及年月日
 - 二 第八十五條第二號乃至第八號第十號及第十一號ニ掲ケタル事項
 - 三 第八十八條ノ受付番號
 - 四 運賃、増賃金、料金ノ額及其ノ受否
- 第九十條 荷送人ハ貨物ノ性質ニ依リ運送中ノ減量又ハ毀損ヲ防クニ必要ナル荷造ヲ爲スヘシ
- 貨物ニハ各箇ニ箇數、記號、宛名等ヲ明瞭ニ其ノ外面ニ標記シ他物ト取違ハサル様注意ヲ爲スヘシ且成ルヘク到達停車場名ヲ附記スヘシ
- 第九十一條 貨主カ貨物ノ積卸ヲ爲スヘキ場合

鐵道運輸規程

一三九

ニ於テハ鐵道ハ積卸時間ヲ定メ貨主ニ其ノ通知ヲ發スヘシ

鐵道ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ前項ノ通知ヲ發スルコト能ハサルトキハ當該停車場ノ揭示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

貨主カ第一項ノ時間内ニ積卸ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル貨車留置料ヲ請求シ又ハ荷受人ノ費用ヲ以テ貨物ノ荷卸ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 貸切貨車積貨物及一箇ノ長二十尺重量五百斤又ハ容積四十立方尺ヲ超ユル貨物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス

第九十三條 貨主カ積卸ヲ負擔スル場合ニ於テ鐵道所屬ノ器具ヲ使用スルトキハ鐵道ハ監督

鐵道運輸規程

官廳ノ認可ヲ得タル料金ヲ請求スルコトヲ得
 第九十四條 貨物ノ運賃其ノ他運送ノ爲受クル
 料金ハ鐵道ノ認諾アルトキノ外貨物託送ノ際
 ニ之ヲ支拂フヘシ
 運賃金額ヲ確定スルコトヲ得サルトキハ鐵道
 ハ概算拂ヲ請求スルコトヲ得
 第九十五條 錠鎖保護ヲ要シ又ハ雨浸ヲ避クル
 ノ必要アルモノ若ハ火氣ニ感シ易キ物品ハ有
 蓋貨車ニ搭載スヘシ但シ特約アル場合ハ此ノ
 限ニ在ラス
 第九十六條 鐵道ハ無蓋貨車用ノ覆布及綱ヲ準
 備スヘキモノトス其ノ使用ニ對シ料金ヲ請求
 スルコトヲ得ス但シ貨車貸切ノ場合ニ於テ特
 約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 貨物カ到達停車場ニ到達シタルト
 キハ鐵道ハ遲滞ナク引取時間ヲ定メテ到達ノ
 通知ヲ發スヘシ但シ配達ヲ爲スヘキ貨物ニ
 テハ此ノ限ニ在ラス
 第九十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ
 準用ス
 第九十八條 荷受人カ前條ノ引取時間内ニ貨物
 ノ引渡ニ應セサルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認
 可ヲ得タル貨物保管料ヲ請求スルコトヲ得
 荷受人カ貨物ノ引渡ヲ受ケタル後其ノ引取ヲ
 爲ササルトキハ鐵道ハ貨物留置料ヲ請求スル
 コトヲ得但シ引取時間内ハ此ノ限ニ在ラス
 第九十九條 貨物ノ滅失又ハ毀損アルトキハ鐵
 道ハ速ニ調査ヲ遂ケ之ヲ書面ニ具シ荷送人及

荷受人ニ通知スヘシ

ヲ施行ス

第九十條 貨物引換證ヲ交付シタル場合ニ於テ該
 證ノ紛失等ニ因リ之ト引換ニ貨物ノ引渡ヲ請
 求スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ引渡請求人
 ニ於テ其ノ權利ヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供
 シタルトキニ限り貨物引渡ノ義務アルモノト
 ス
 第九十一條 貨物引渡ノ際重量ノ検査若ハ貨物ノ
 狀態ニ付證明ヲ請求セラレタルトキハ鐵道ハ
 之ヲ拒ムコトヲ得ス
 第九十二條 第十九條ノ規定ハ貨物ノ運送ニ之ヲ
 準用ス

附 則

第九十三條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之

鐵道運輸規程

第九十四條 鐵道カ外國ト連絡運輸ヲ爲ス場合ニ
 於テハ本規程ニ依ラサルコトヲ得但シ私設鐵
 道ニ在リテハ監督官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要
 ス

荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハザル鐵道運送品等ノ公告ニ關スル件 一四二

荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハザル

鐵道運送品等ノ公告

ニ關スル件

(明治四十三年五月一日閣令第一一號)

改正 (大正八年七月閣令第八號)

荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル鐵道運送品等ノ公告ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 鐵道營業法第十三條ノ二ノ規定ニ依リ荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送品ニ付爲ス公告ハ運送品ノ名稱種類箇數記號

發送停車場到達停車場保管停車場ノ名稱及託送到達ノ日時等成ルヘク其ノ運送品ヲ知得ス

ルニ足ルヘシト思料スル事項竝公告後六月内ニ其ノ權利者ノ申出ナキトキハ鐵道ニ於テ其

ノ所有權ヲ取得スヘキ旨ヲ記シ之ヲ官報ニ掲載スルモノトス

第二條 鐵道ハ荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送品ナルコトヲ知リタルトキハ遲

滯ナク其ノ鐵道ノ各停車場ニ備付ケタル帳簿ニ前條ト同一事項ヲ記入シ其ノ所有權ヲ取得

スルニ至ル迄公衆ノ閱覽ニ供スルコトヲ要ス

第三條 前二條ノ規定ハ鐵道營業法第十三條ノ二ニ規定スル託送手荷物一時預リ品ニ之ヲ準

用ス

閣令第十三號

大正八年八月十三日

地方鐵道係員職制

第一章 總則

第一條 地方鐵道ノ係員職制ハ本令ノ定ムル所

ニ依ルヘシ但シ鐵道ノ狀況ニ依リ本令ニ依リ難キ場合ニ於テハ別ニ職制ヲ定メ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

第二章 運輸係員

第二條 地方鐵道ニ左ノ運輸係員ヲ置ク

運輸係長
驛長
助役

地方鐵道係員職制

出札掛

改札掛

貨物掛

小荷物掛

操車掛

轉轍手

驛夫

車掌

機關庫主任

機關手

機關助手

檢車手

機關夫

炭水夫

地方鐵道係員職制

- 前項ノ係員ハ職務ノ狀況ニ依リ二以上ノ係員ノ職務ヲ兼ヌルコトヲ得
- 第三條 運輸長ハ鐵道ノ運輸、運轉及車輛ノ修理、保管ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬係員ヲ監督ス
- 第四條 驛長ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理シ構内ノ秩序ヲ保持シ所屬係員ヲ監督ス
- 第五條 助役ハ驛長ヲ補佐シ又ハ之ヲ代理ス
- 第六條 出札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乘車券ノ發賣ニ從事ス
- 第七條 改札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乘車券ノ檢査及取集ニ從事ス
- 第八條 貨物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ受託、保管及引渡ニ從事ス

- 第九條 小荷物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ手小荷物ノ受託、保管及引渡ニ從事ス
- 第十條 操車掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ車輛ノ入換及信號機ノ取扱ニ從事ス
- 第十一條 轉轍手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ轉轍器ノ取扱ニ從事ス
- 第十二條 驛夫ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ掃除、荷物ノ積却、運搬等ノ雜務ニ從事ス
- 第十三條 車掌ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及旅客荷物ノ輸送ニ從事ス但シ列車力停車場ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケヘシ
- 第十四條 機關庫主任ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ機

第三章 保線係員

- 關庫ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス
- 第十五條 機關手ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ機關車ノ運轉ニ從事ス但シ列車運轉中ニ在リテハ車掌、列車力停車場ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケヘシ
- 第十六條 機關助手ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ機關手ヲ補助ス但シ機關車乗務中ニ在リテハ機關手ノ指示ヲ承ケヘシ
- 第十七條 檢車手ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ車輛ノ檢査及注油ニ從事ス
- 第十八條 機關夫ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ機關車ノ掃除ニ從事ス
- 第十九條 炭水夫ハ機關庫主任ノ指揮ヲ承ケ機關車用燃料ノ搭載、給水等ノ雜務ニ從事ス

- 第二十條 地方鐵道ニ左ノ保線係員ヲ置ク
 - 保線長
 - 保線手
 - 線路工夫
 - 踏切番
- 第二十一條 保線長ハ線路及諸建造物ノ修理及保存ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬係員ヲ監督ス
- 第二十二條 保線手ハ保線長ノ指揮ヲ承ケ線路及諸建造物ノ修理及保存ニ從事シ所屬係員ヲ監督ス
- 第二十三條 線路工夫ハ保線手ノ指揮ヲ承ケ線路及諸建造物ノ看守、修理及保存ニ從事ス
- 第二十四條 踏切番ハ保線手ノ指揮ヲ承ケ踏切

地方鐵道係員職制

地方鐵道係員職制

道ノ看守ニ從事ス但シ停車場構内踏切道ノ看守ニ付テハ驛長ノ指示ヲ承クヘシ

第四章 電氣係員

第二十五條 電氣ヲ動力トスル地方鐵道ニ左ノ電氣係員ヲ置ク

- 電氣長
- 發電所主任
- 變電所主任
- 電路主任
- 電車庫主任
- 運轉手
- 電工
- 電氣工夫

第二條第二項ノ規定ハ電氣係員ニ之ヲ準用ス

電氣機關車及電車ノ運轉ニ從事ス

第十五條但書ノ規定ハ運轉手ニ之ヲ準用ス

第三十二條 電工ハ發電所主任、變電所主任又ハ電車庫主任ノ指揮ヲ承ケ器機ノ検査及修理其ノ他ノ雜務ニ從事ス

第三十三條 電氣工夫ハ電路主任ノ指揮ヲ承ケ電線路及之ニ附帶スル器機ノ看守、修理及保存ニ從事ス

附則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス
鐵道係員職制ハ之ヲ廢止ス
本令ニ依リ届出ツヘキ事項ニシテ舊令ニ依リ届出ヲ爲シタルモノハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

地方鐵道係員職制

第二十六條 電氣長ハ電氣ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬係員ヲ監督ス

第二十七條 發電所主任ハ電氣長ノ指揮ヲ承ケ發電所ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス

第二十八條 變電所主任ハ電氣長ノ指揮ヲ承ケ變電所ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス

第二十九條 電路主任ハ電氣長ノ指揮ヲ承ケ電線路及之ニ附帶スル器機ノ修理及保存ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス

第三十條 電車庫主任ハ電氣長ノ指揮ヲ承ケ電車庫ニ關スル事務ヲ處理シ所屬係員ヲ監督ス

第三十一條 運轉手ハ電車庫主任ノ指揮ヲ承ケ

大正八年十月五日發行
大正十二年四月廿八日印刷
大正十二年五月一日再版發行



編輯者兼

印刷者

印刷所

發行所

定價金壹圓五拾錢
郵稅金拾壹錢

木下武之助

井村精一

千代田印刷株式會社

株式會社 鐵道時報局

東京市京橋區采女町十七番地
電話銀座二八二番・區三八三番
振替口座東京四二二三番

國有鐵道の建設、保線建築等に
關する現行諸規定及參考圖表一
切を網羅す石版刷大さ十時半十
五吋加除自在紙數約二百六十枚

信號に關する一切の現行諸定規
圖を網羅す

信號に關する諸規定中改正あり
たるさき隨時發行す

鐵道道路の測量及設計にな
くてはならぬ表として汎く
技術者の渴望せらるゝは本
書の眞價を裏書せるもの也

第十大
版増補

鐵道省大臣官房研究所編纂

鐵道設計圖表全集

鐵道省大臣官房研究所編纂

鐵道信號圖集

鐵道省大臣官房研究所編纂

鐵道信號圖集第壹號追錄
鐵道信號圖集第貳號追錄

木下武之助著

鐵道曲線測量表 附布設法

定價 拾圓
送料 內地五拾四錢
領土八拾五錢

定價 參圓五拾錢
送料 貳拾六錢

定價 四拾參錢
送料 四拾錢
定價 五拾四錢
送料 四拾錢

定價 四圓
送料 拾參錢

著者は世界的鐵道學者にて譯者
は我國鐵道界の最高權威者也專
門の鐵道家は勿論鐵道に志ある
學者實業家は學生は本書に依りて
深遠なる學理を廣汎なる實際の
活知識を得られん事を切望す

シヨンソン博士著前鐵道院運輸局長木下淑夫譯

鐵道運輸原論

鐵道時報局編纂最新發行

鐵道要鑑

鐵道最新の現況を網羅し鐵道
及鐵道關係當事者日常執務の
參考書なり

第五版

定價 八圓也
送料 貳拾五錢

鐵道界の米の飯なり、鐵道
生活には缺く可からざるとも
のなり。

週刊

鐵道時報

一部送五料共
拾月送六料共
壹圓參拾六錢
六ヶ月送拾七錢
金貳圓七拾錢

291
428

ボケツト型

月刊

毎九年月賣出

毎月壹回、十五日發行

土木建築雑誌
シビル・エンド・アーキテクチャー

一部送料共金五拾貳錢
半ヶ年送料共金貳圓五拾錢
一ヶ年送料共金五圓

鐵道日記	機械日記	土木建築日記	電氣日記	化學工藝日記	ビジネス、ダイアリー
------	------	--------	------	--------	------------

送定料價九壹錢圓	送定料價九壹錢圓	送定料價九壹錢圓	送定料價九壹錢圓	送定料價九壹錢圓	送定價壹圓貳拾錢
----------	----------	----------	----------	----------	----------

發行者 新進學士菊倍版ポイン卜横組每號石版大附録添付

終

